

科目名 (英)	基礎生物学 Biology	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	深田 哲也
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	1			曜日/時間	月/1.2限
講師紹介	<p>薬剤師としての臨床経験、教育経験を踏まえて、歯科衛生士に必要な基礎生物学を講義する。 略歴: 北里大学大学院修了後、日本歯科大学にて歯科用医薬品の研究ならびに薬理学講義、同実習、放射性同位元素安全取り扱い講習などを担当。 現在は薬剤師として勤務。一般人にもわかりやすい服薬指導を心がけ、医薬品の適正利用を通じて公衆衛生の向上に務める。</p>						
目的	<p>人体の構造や機能を理解し職務にあたるための礎とする。 歯や口腔の衛生状況は全身の健康状態と切り離せないものであり、口腔領域にとどまらず全身に対する理解を深める。</p>						
科目概要	<p>人体機能の基礎知識を習得し、患者の疾患予防を目指した行動ができる。</p>						
到達目標	<p>生物とは何か細胞から個体まで理解する。</p>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート</p>						
教科書	なし。			事前事後 学習と その内容	生物学では様々な生き物の生命活動の基礎を身につけます。 これから学ぶ専門科目を深く理解するためにも、わからないことは先送りせずによく解決できるようにしましょう。		
参考図書	イラストでわかる歯科医学の基礎(永末書店)						
特記事項	なし。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	生命について (1)	講義	1. 生命とは何か 2. 生命の誕生 3. 生命の変遷
2	生命について (2)	講義	1. 人体の発生と成長 2. 人体の構成 3. からだの各部の名称
3	組織と細胞 (1)	講義	1. 細胞の構造 2. 細胞膜 3. 細胞の働き
4	組織と細胞 (2)	講義	1. 単細胞生物と多細胞生物 2. ヒトの組織 3. ヒトの器官
5	組織と細胞 (3)	講義	1. 細胞増殖 2. 細胞分裂 3. 細胞死 (アポトーシスとネクローシス)
6	細胞の一生と個体の成り立ち (1)	講義	1. 生殖 2. 減数分裂 3. 遺伝の法則
7	細胞の一生と個体の成り立ち (2)	講義	1. 染色体と遺伝子 2. DNAの複製 3. 遺伝情報の伝達とタンパク質合成
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	基礎化学 Chemistry	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	川名 修
		授業形態	講義		有	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8		曜日/時間
		単位	1			火/1.2限	
講師紹介	光硬化材料の開発の実務経験を有した教員が、歯科衛生士に必要な化学の基礎分野を講義する。						
目的	化学の知識・技能を修得し、歯科衛生士の実務に応用できるようになる。						
科目概要	歯科衛生士課程における専門科目を学習する上で、それらの理解を助け、意欲の向上につなげるための基礎的な化学の知識の理解を含める。						
到達目標	実務上必要な化学の知識・技能を修得する。 分からないことを調査するために正しい化学式を読むことができる。 身の回りの物質を化学結合から3つに分類することができる。さらに物質の性質を化学結合との関係から理解する。 様々な歯科材料の性質を理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	化学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布資料を再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	必要に応じてテキストを参照。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	化学を学ぶことの意義 物質の分類・構造・原子の電子配置	講義	元素記号と名称、物質の構成、原子の電子配置、イオン生成の原理について理解する。
2	物質量の考え方 物質量の定義、原子量・分子量・式量	講義	物質量の考え方を理解する。 物質量、粒子数、質量の換算ができるようになる。
3	化学結合のしくみについて 共有結合・イオン結合・金属結合の成り立ち	講義	どのように化学結合が形成されるか。 また共有結合、イオン結合、金属結合のそれぞれの成り立ちと物質の性質の関係を理解する。
4	物質の三態およびその変化について 固体・液体・気体とは何か 溶液の濃度の定義・濃度計算	講義	物質の状態とは何かを理解する。 気体、液体、固体の相互変化の名称と熱の出入り、加えて身近な現象との関係を理解する。 また、溶液の濃度の考え方、簡単な調製方法を理解する。
5	金属、無機化合物について 歯科材料の扱い方	講義	無機化合物とは何かを理解する。 代表的な歯科材料について知り、その性質や用途について理解を深める。
6	有機化合物について 炭素を含む化合物について	講義	有機化合物とは何かを理解する。 特に官能基と性質との関係について理解を深める。 代表的な歯科材料の性質と用途について理解を深める。
7	生物に関係する化学について 糖質・脂質・タンパク質などの基本的な情報 について	講義	糖質、脂質、タンパク質について、まずその構造について理解する。 生化学への理解につなげるような基礎的な機能や性質について理解を深める。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科英語 Dental English	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	内田 愛
		授業形態	講義		有	開講区分	
		時間数	15	授業回数	8		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	1			曜日/時間	金/3限
講師紹介	イギリス文学専攻。非常勤講師として、大学や専門学校で一般英語、TOEIC対策、英米文学、歯科英語などの実務経験を有した教員が、歯科衛生士に必要な歯科英語を講義する。						
目的	実際に歯科クリニックで使用される英会話を扱ったテキストを読み、聞き取り、発音することによって、歯科衛生士として知っておくべき実用的な英語知識・能力に磨きをかけること。また、将来、英語を勉強しなければならない状況が生じることを予想し、どのように英語を独学すればいいかという方法論を自分で探し出すことができるようになること。						
科目概要	実際の歯科クリニックで使用される場面を想定しての英語での会話、表現を学ぶ。						
到達目標	テキストで学んだ表現を理解し、発話出来るようになる。テキストで学んだ語彙を覚え、必要なときには使いこなすことが出来るようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科英語(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	【事前学習】15分～30分程度。取り上げる章の中の分からない単語の意味を調べておく。 【事後学習】15分～30分程度。テキスト内のダイアログをスラスラ読めるまで音読、使える表現を覚えるようにする。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	電話予約で使われる英語を理解する	講義	1:(歯科)英語を使うこととは? 英語の勉強法など 2:重要語句・表現の確認 3:本文の分析 4:本文の聞き取り、読み
2	薬を求める患者さんへの英語での対応ができるようになる	講義	1:前回の振り返り 2:重要語句・表現の確認 3:本文の分析 4:本文の聞き取り、読み
3	緊急の予約に使われる英語を理解する	講義	1:前回の振り返り 2:重要語句・表現の確認 3:本文の分析 4:本文の聞き取り、読み
4	国民健康保険に関する英語表現を熟知する	講義	1:前回の振り返り 2:重要語句・表現の確認 3:本文の分析 4:本文の聞き取り、読み
5	英語で患者さんに症状を聞き出すことができるようになる	講義	1:前回の振り返り 2:重要語句・表現の確認 3:本文の分析 4:本文の聞き取り、読み
6	病歴に関連した英語を理解できるようになる	講義	1:前回の振り返り 2:重要語句・表現の確認 3:本文の分析 4:本文の聞き取り、読み
7	英語で歯周病について患者さんに説明できるようになる	講義	1:前回の振り返り 2:重要語句・表現の確認 3:本文の分析 4:本文の聞き取り、読み
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	国語表現法 Usage of Japanese Expressions	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	岩佐 浩之
		授業形態	講義		無	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8		曜日/時間
		単位	1			月/3.4限	
講師紹介	一部上場企業メーカー勤務にて、製造から営業までの経歴をもち、現在3社を経営、社員教育・採用などを行う講師。自己肯定感の持ち方・的確に自分を表現できる国語力の身に付け方を講義する。						
目的	生活するうえで、また社会人として大変重要な国語力を高めることができるようになる。						
科目概要	双方向の会話ができるようになり、相手の気持ちを考えて、信頼関係が築けるようになるために国語力を習得する。文章を読んで、相手の意図を理解し、それに対して求められるリアクションを言葉もしくは行動で返すことができる力を身に着ける。						
到達目標	感想と考察の違いを学び、表現できるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	なし。			事前事後 学習と その内容	日頃より読書をする習慣をつけ、授業で学んだことを実践すると理解度が高まる。		
参考図書	なし。						
特記事項	【定期試験】配付プリント、小テストを中心に出题。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	感想と考察の違いを学ぶ 例文から感想と考察の違いを見分けることができる	講義	感想と考察の違いを例を読んで理解する。 観察と考察の特徴を知る。 文章を読み、感想と考察を書いてみる。
2	例文を読み感想と考察を書くことができる	講義	他者の感想と考察を読み、意見や感想を言い共通理解を深める。 文章を読み、感想と考察を書いてみる。
3	例文を読み感想と考察を書いてみる	講義	他者の感想と考察を読み、意見や感想を言い共通理解を深める。 文章を読み、感想と考察を書いてみる。
4	実習先、指導案を読み、考察を書き出す 自分に置き換えて考える	講義	指導案の書き方を知る。 俯瞰して考察を書きだす。 自分と他者の意見の相違を知り、今後に役立てる。
5	実習先、指導案を読み、考察を書き出す 自分に置き換えて考える	講義	指導案の書き方を知る。 俯瞰して考察を書きだす。 自分と他者の意見の相違を知り、今後に役立てる。
6	実習先、指導案を読み、考察を書き出す 自分に置き換えて考える	講義	指導案の書き方を知る。 俯瞰して考察を書きだす。 自分と他者の意見の相違を知り、今後に役立てる。
7	自己紹介文を作成する 感想と考察の違いを再確認する 定期試験の傾向を解説する	講義	長所、短所、特技、趣味など自分自身を見つめなおす。 自己紹介文を書き、プレゼンテーションを行う。 振り返り。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出题する。

科目名 (英)	医療倫理 Medical Ethics	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	尾崎 哲則
		授業形態	講義		有	開講区分	
		時間数	15	授業回数	8		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	1				曜日/時間
講師紹介	歯科医師としての臨床経験と豊富な教員経験を活かし、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 日本大学歯学部元教授。地域保健学、医療管理学を専門とする。 多くの学会でヒトを対象とした医学研究倫理審査委員会の設立・運営に関わってきた。						
目的	将来、歯科衛生士として国民の保健医療福祉に関わるにあたり、必要な歯科保健医療における医療倫理について専門的知識の習得、および倫理観の育成を目的とする。						
科目概要	医の倫理の原則を学び、倫理的判断に基づいた行動が取れるようになる。						
到達目標	インフォームド・コンセント及びセカンド・オピニオンについて説明できる。 医の倫理に関する国際規定について概説できる。 生命倫理(Bioethics)の成り立ちおよび原則論について説明できる。 ターミナル・ケアのありかたを概説できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科医療倫理学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布資料を再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	別途、授業内で紹介する。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科衛生士と医療倫理	講義	これからの歯科医療現場で、歯科衛生士が医療倫理を学ぶ必要性を知る。 わが国の歯科衛生士には、法的にあるいは倫理的にどのようなことが必要とされているか、その条件について理解する。 倫理で必要とされる用語について説明できる。
2	医師中心の医療から患者中心の医療へ	講義	患者の権利と患者の自己決定権について説明できる。 わが国における「患者の権利」について概説できる。 倫理・法的理解に必要な用語について説明できる。
3	インフォームド・コンセント	講義	インフォームド・コンセントについて説明できる。 パターナリズムとの違いについて理解する。 患者の同意に伴う自由について理解する。 セカンド・オピニオンについて説明できる。
4	医の倫理にかかわる国際的な規範	講義	医の倫理に関する国際規定には、「ヒポクラテスの誓い」からジュネーブ宣言・ヘルシンキ宣言・リスボン宣言とさまざまなものがあり、これらについて概説できる。
5	臨床での医療倫理における判断	講義	現代日本社会の道德・倫理・習慣そして法律との差異について学ぶ。 生命倫理(Bioethics:バイオエシックス)の成り立ちおよび原則論について説明できる。
6	生命の始まりと終わり、子どもを持つ権利	講義	現代における人権の重要な項目のひとつに、リプロダクティブ・ライトがあるが、このことについて母性の観点から考える。死を、従来の日本ではどのようにとらえてきたか、また西欧諸国(主にキリスト教国家)ではどのようにであったかについて知る。ターミナル・ケアをひとつのキーワードに人の一生のあり方について説明できる。
7	医療倫理のまとめ	講義	医療とは何であり、医学とはどこが違うのかなど、医療の位置づけについて概説できる。 医療は、誰のために、どのような目的をもって行われるかについて概説できる。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	コンピュータ基礎 Computer Basics	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	藤林 大和
		授業形態	講義		無		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	金/3.4限
講師紹介	IT講師として、情報処理から経理までを専門分野とし、現在3社のマーケティングアドバイザーとして活躍している講師が教える、IT講義。また、100年以上続く家業の四代目として、資産の運用から、マーケティング、社員教育までを実践している。						
目的	社会で働く上で必要となるコンピュータの基礎的な操作法を身につける。						
科目概要	オフィスソフトを通じ、社会でのコンピュータの使用方法を学ぶ。データの閲覧・入力だけでなく下地から作成することにより、総合的に資料を作成できるようにする。また、プレゼンテーション資料の作製を通じ、情報の伝え方とそれに伴う資料の作製技術を身につける。						
到達目標	ビジネスの場におけるコンピュータの取り扱いを身につける。 ワード・エクセルを用い、文書作成や表計算の基礎的な技術を身につける。 パワーポイントを用い、プレゼンテーション資料の作成の技術を身につける。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	なし。			事前事後 学習と その内容	平素より、インターネットなども含め、コンピュータに触れるように心がける。		
参考図書	なし。						
特記事項	必要に応じてプリントを授業ごとに配布。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ワードにおける表の作成	講義	ワードで表の作成を学ぶ。 基礎的な文字入力や文字の装飾、表の組み方を身につける。 実際に印刷し、掲示することを考え資料を作成する。保存やコピー、フォルダ管理など、コンピュータ上で作成したファイルの取り扱いを身につける。
2	エクセルを用いて表を作成する	講義	エクセルの基礎的な操作を学ぶ。 カレンダーの作成を通じ、表の構成を考え、作成する。 出来るだけ作業量を減らし、短時間で表を完成させることを身につける。
3	基礎的な表計算と関数	講義	エクセルにおいての数字の取り扱いや、計算方法を学ぶ。 関数の入力方法や、実際の使われ方を身につけ、実践する。
4	条件によって変化させる関数	講義	金銭の計算を題材にした表計算を身につける。 IF関数を用い、条件によって表示される内容を変化させることを学ぶ。
5	日付の計算とデータの検索	講義	日数や年数など日付の計算を身につける。 入力したデータを検索し、表示させる関数を学ぶ。
6	プレゼンテーション資料作成①	講義	パワーポイントを用い、プレゼン資料の作成をする。 実際のプレゼンテーションを見てどんなことができるのかを学ぶ。 テーマに沿って全体の構成を決定し、内容を考える。
7	プレゼンテーション資料作成②	講義	良いプレゼンテーションにするためには何が必要で何が不要なのかを考える。 観客に印象付けるための工夫を学ぶ。 完成したプレゼンテーションを見る。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	カウンセリング学 Counseling	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	岩佐 浩之
		授業形態	講義		無		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月/3.4限
講師紹介	一部上場企業メーカー勤務にて、製造から営業までの経歴をもち、現在3社を経営、社員教育・採用などを行う講師。 精神的健康の維持・心が壊れない考え方・自分との付き合い方・1対1のコミュニケーション心理縦の人間関係のコミュニケーションの考え方を分かりやすく講義する。						
目的	社会に出て役に立つ考え方を学び、身に着け実践できるようになる。 自分の心を守り、周りの力になり、最大の結果を出せるチームの一員になれるようになる。						
科目概要	心の健康を健全な状態にできるコミュニケーションを学び、身に付ける。						
到達目標	心の健康・身体の健康・経済的健康について学び、バランスのとれた健康を実践できるようになる。 心の健康を健全な状態にできるコミュニケーションを学び、身に付ける。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	なし。			事前事後 学習と その内容	日常生活の中での疑問を見つけ質問する。習慣をつけ授業で学んだことを実践すると理解度が高まる。		
参考図書	なし。						
特記事項	【定期試験】配付プリント、小テストを中心に出题。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	授業の流れと到達地点の説明	講義	到達地点をイメージして、何に向かって学ぶのかを明確にしてスタートすることが出来るようになる。
2	心の健康について理解する	講義	統合失調症とうつ病・病気の原因と対処法 その他の病気について知る。 体の健康について理解する。 病気の原因と対処法について知る。 食べ物と病気について知る。
3	コミュニケーションの基本について理解する	講義	自己覚知 コミュニケーションの構造 様々な人とのコミュニケーション
4	目標とは何か・どのように設定するのかを学び、実践できるようにする	講義	現在地点の把握 トータルパースン 有形の目標と無形の目標 価値の設定
5	クワドラントについて学ぶ	講義	収入の種類について学ぶ。 従業員 自営業 オーナー 投資家
6	人脈の作り方・整理の仕方 アドラー心理学について学ぶ	講義	現在の人脈を整理する。 経営に必要な人脈は、どのような職業の人が整理する。 人脈を管理する方法を学ぶ。 時代の流れ、ペイシクミスティックについて学ぶ。
7	目標達成の仕方を学び理解し 使えるようになる	講義	情報／仲間さがし きっかけ・モチベーション／環境を整える 報酬のイメージ／行動する 願望／毎日の成果のチェック 決断／習慣にする 目標設定・期限を切る／潜在意識に落とし込む プランを立てる／実現する 夢泥棒
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出题する。

科目名 (英)	コミュニケーションスキルアップ検定 Certificate for Communication Skill up	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	木村 雅一
		授業形態	講義		無		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	火/3.4限
講師紹介	専門商社で北米・東南アジアを主とした貿易業務に携わり、異文化コミュニケーションの大切さ、難しさを身を持って体験した講師が、長年の経験をもとに、社会の中で生きる人間にとって基礎となる”コミュニケーション”の講義を行う。同時に職業人としての自己表現・接客・マナー・ホスピタリティ精神・患者さん対応の要素も含めた社会的スキルの基礎的知識を習得する講義を行う。様々な角度からコミュニケーション力・人間力・生きる力を考え、洞察力が身につく講義です。						
目的	人間関係を円滑にし、職業人として身につけるべき自己表現・接客・マナー・ホスピタリティ精神の要素も含めた社会的スキルの大切さを意識し、専門的知識と基礎的知識の基礎を習得する。						
科目概要	専門商社で北米・東南アジアを主とした貿易業務に携わり、異文化コミュニケーションの大切さ、難しさを身を持って体験した講師が、長年の経験をもとに、人との中で生きることが必須となる人間にとって基礎となる”コミュニケーション”講義を行う。						
到達目標	社会で通用するコミュニケーション力を身につけ実践の場で行動できるようになる。 コミュニケーションスキルアップ検定に合格する。 職業人として効果的なコミュニケーション方法を知り、活用できるようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	コミュニケーションスキルアップ検定テキスト(みつわ印刷)			事前事後 学習と その内容	分からない専門用語などは、予め調べて予習しておく。 日常のコミュニケーションの場においても、授業でのポイントは意識してみる。		
参考図書	同上。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	コミュニケーションとは	講義	・コミュニケーションの定義について理解することができる。 ・コミュニケーションの3領域・種類を理解することができる。 ・表情・態度・口調が言葉以上に重要であるということが理解できるようになる。
2	基本的対話スキル(1対1の会話)	講義	・コミュニケーション・ミスコミュニケーションの原因を会話のプロセスの中で理解することができる。 ・「聴く」「話す」の基本「上手な質問」の要点を理解することができる。 ・会話＝気持ちや考えの交換を事例を通して学ぶ。
3	グループでの会話 自己表現スキルⅠ	講義	・グループとは？ グループの意義を理解することができる。 ・グループでの会話の基本を1対1との会話と比較し理解することができる。 ・人間関係を円滑にする表現技術の要点を理解することができる。
4	自己表現スキルⅠ 自己表現スキルⅡ	講義	・人間関係を円滑にする「上手な頼み方」「上手な断り方」のポイントを理解することができる。 ・仕事上で必要とされる表現技術のスキルを理解することができる。 「報告」「連絡」「相談」 5W1H法 PREP法
5	自己表現スキルⅡ	講義	・「交渉」というコミュニケーションについて理解することができる。 ・「説得」というコミュニケーションについて理解することができる。 ・プレゼンテーションの基本を理解し、簡単なプレゼンテーションができるようになる。
6	自己表現スキルⅢ	講義	・トラブルのもととなる感情への対処法が理解できるようになる。 ・アンガーマネジメントについて理解できるようになる。「感情」と「行動」の相関性、対処法が理解できるようになる。 ・怒りの感情の扱い方、怒りの伝え方、他者からの怒りの対処。
7	社会的スキル 対人行動	講義	・基本的な社会的スキル マナー／仕事に対する姿勢について、理解できるようになる。 ・社会的スキル 対人行動を理解し、活用できるようになる。 1挨拶 2敬語 3電話対応 4携帯電話
8	文章作成	講義	・分からない問題を洗い出し、課題を抽出し、抽出された課題の何が分からなかったのかを特定し、理解する。 ・社外文章を明瞭・簡潔に記書きを用いて作成体験し、実践に備える。
9	社会的スキルⅠ 対人行動 文書作成	講義	・社会的スキルの実践 習得をする。 5接客 6訪問 7訪問(謝る おわびをする) ・ビジネス文書(社内文 社外文)の意義を理解することができる。
10	社会的スキルⅡ 文書作成	講義	・社外文章を明瞭・簡潔に記書きを用いて作成できるようになる。
11	社会的スキルの実践 文書作成	講義	・社会人の基本的マナー・教養、身につけるべき知識を学習し、日々の行動から意識し活用できるようにする。手紙 メール SNS FAX
12	サービスマインドⅠ サービスマインドとは	講義	・サービス社会をふまえて、サービスマインドとは？ サービスとは？について理解することができる。 ・サービスの心得を習得し、実践の場に活かすことができる。
13	サービスマインドⅠ サービスマインドとは	講義	・サービスを作り出す基本要素を理解することができる。①人(あなた)と顧客／顧客満足度の関係を整理し、適切な行動と顧客理解、顧客ニーズを理解することができる。 ・②環境 身だしなみを中心に環境サービスについて理解できる。
14	サービスマインドⅡ サービスの基本要素	講義	・企業、店舗における経営理念、それを実現するための方針、サービスの方法、お客様への考え方を「プロセス」としてとらえ、その方針や目的を実現するための重要な過程を理解することができる。理念、方針の理解 迅速対応 win-winの関係
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	手話 Sign Language	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	高須 一美
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	水/3.4限
講師紹介	手話通訳士として講演会通訳・政見放送通訳等現場通訳の実務経験を有し、専門学校・カルチャーセンター等に於ける手話指導を行っている講師が演習を交えて講義を行う。						
目的	手話の基本技術を修得し、聴覚障害の患者様の対応ができるようになる。						
科目概要	コミュニケーション方法の一つとして手話の基本技術を習得し、聴覚障がいについての理解を深める。						
到達目標	コミュニケーション方法としての手話を身に付ける。 聴覚障がいの患者様が治療の場でリラックスできる様、聴覚障がいについての理解を深める。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	手話テキスト I (みつわ印刷)			事前事後 学習と その内容	毎回、授業のはじめに前回の復習を行うので、授業資料を確認しておくことよ。授業の終わりには、まとめとして小テストを行い理解の確認をする。分からなかったところは、各自見直しておくことと理解が深まる。		
参考図書	なし。						
特記事項	写真撮影、スマートフォンの録画は許可しない。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	手話とは 聴覚障がいとはどのような障がい 挨拶の表現	講義	コミュニケーション方法の手話について理解し、聴覚障がいについて正しく理解をする。 治療の現場で挨拶の手話が自然に表現出来る様に、安心して治療を受けられる様援助する技術を学ぶ。
2	自分の名字を表現する 相手に名前を尋ねられる様になる	講義	自分の名字・歯科衛生士である事を表現できるようになる。 緊張している相手に対して自らの母語である手話で声掛けができる様になる。
3	指文字(50音)の表現方法 現場で使える単語	講義	指文字を表現する。 カタカナ表示の物の名前を表現してみる。 痛み、薬 etc現場で使える単語を覚える。
4	数字の表現 聴覚障がい者と聴者の世界	講義	日付の表現・時間・金額等数字に関わる表現がスムーズに表現できるようになる。
5	時制(過去・現在・未来)の表現 曜日の表現	講義	今日・明日・昨日・先週・来週等、曜日の表現を覚え会話の中で使える様になる。
6	疑問詞 コミュニケーションを取る	講義	会話ができるように、2人で質問と応答ができる様になる。
7	1～6回までのまとめ	講義	現場でのやり取りを想定して、実践に生かせる様に身に付ける。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	解剖学 Anatomy	年次	1	必修科目	有	科目 責任者	中村 雅典
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	2			曜日/時間	火/2,3限
講師紹介	歯科医師として東北大学病院での臨床経験を有した講師が、大学での教育経験を活かし歯科衛生士に必要な解剖学を講義する。 【所属】昭和大歯学部 客員教授、日本歯科大学生命歯学部 客員教授 【専門分野】解剖学・組織学 【所属学会】日本解剖学会、歯科基礎医学会等						
目的	講義では、異常についても触れながら、基本的正常構造に関する知識を理解する。						
科目概要	正常な人体の構造を理解することは、疾患等の異常を知るための基本的知識である。 本講義では、歯科衛生士として必要な人体を構成する細胞、組織の基本的構造とその働き、人体の発生の基本的事項を習得する。						
到達目標	歯科衛生士として必要な、人体を構成する細胞、組織の基本的構造とその働き、人体の発生の基本を理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	解剖学(医歯薬出版)		事前事後 学習と その内容				
参考図書	なし。						
特記事項	なし。						
授 業 計 画							
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容				
1	解剖学概論	講義	解剖学の種類、人体の構成と区分、解剖学用語、体の方向用語について理解する。				
2	細胞の基本構造	講義	細胞の中にある基本的構造(細胞内小器官)と機能、ならびに細胞分裂について理解する。				
3	組織の分類	講義	身体を構成する組織の種類とその機能を理解する。				
4	個体発生	講義	精子と卵子の発生、染色体、受精と着床、胚葉の形成、胎児の成長と発育について理解する。				
5	骨	講義	体を構成する骨の構造と各骨の名称を理解する。				
6	筋	講義	筋の基本構造と全身の筋について、機能と名称を理解する。				
7	脈管	講義	脈管系の基本的な構造と機能を理解し、全身の血管系の名称を理解する。				
8	消化器系	講義	消化器系の基本構造、機能及び各部の名称について理解する。				
9	呼吸器系	講義	呼吸器系の基本構造と機能について理解し、各部の名称を理解する。				
10	泌尿生殖器系	講義	泌尿器及び生殖器の機能形態を理解し、各部の名称を理解する。				
11	内分泌系	講義	内分泌系について、機能と解剖学的な名称を理解する。				
12	中枢神経系	講義	神経系について、基本的機能形態を理解するとともに、中枢神経系の名称と機能を理解する。				
13	末梢神経系	講義	末梢神経系(運動神経、感覚神経、自律神経)の違いを理解し、全身に分布する神経の名称を理解する。				
14	感覚器系	講義	感覚器の機能、形態及び名称を理解する。				
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。				

科目名 (英)	生理学 Physiology	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	青木 文子/中山 希世美
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	1				曜日/時間
講師紹介	青木 文子: 歯科医師としての臨床経験と豊富な教員経験を活かし、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 【所属】昭和大学・歯学部 口腔生理学講座講師【専門分野】生理学・口腔生理学【所属学会】日本生理学会・歯科基礎医学会【研究】咀嚼、嚥下 中山 希世美: 臨床検査技師としての臨床経験と豊富な教員経験を活かし、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 【所属】昭和大学・歯学部 口腔生理学講座講師【専門分野】生理学・口腔生理学						
目的	生体の様々な臓器や器官の分布や内臓各気管の構造について理解し、歯科臨床に応用出来るようになる。						
科目概要	口腔領域の疾患の診断、治療の基礎となる知識を身につけるために、細胞、組織、臓器の機能とそのメカニズムの理解を深める。						
到達目標	人体を構成する細胞、組織、臓器の機能について説明できる。 各細胞、組織、臓器の機能が保たれるメカニズムを説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	生理学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	授業までに教科書の該当部分に目を通すことで、授業内容をある程度把握しておくことにより理解が深まる。 毎回授業終わりに小テストを行い、授業内容の確認を行う。		
参考図書	なし。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	細胞の基本的生理機能	講義	細胞の基本的な構造とともに、それぞれの構造物がどのような機能を果たしているのか理解する。特に細胞膜については、透過性や電気現象についても学んでいく。
2	筋組織と運動ニューロンの働き	講義	骨格筋、心筋、平滑筋の構造を理解する。骨格筋に関しては、その収縮機序を学ぶ。また、骨格筋を支配する運動ニューロンの働きと反射について学ぶ。
3	消化器官の機能	講義	主要な消化器官と、分泌される消化液および消化酵素の機能を理解する。さらに、消化液と消化管運動の調節機構も理解する。
4	血液循環の仕組み	講義	血液循環について理解し、体循環、肺循環を説明できるようになる。心収縮の仕組みや血圧の調節機構について理解する。
5	血液成分の機能	講義	血液成分の機能について理解する。また、止血と血液凝固の機序、および血液型と輸血について学ぶ。
6	神経系の機能	講義	神経系の基本的機能を学ぶ。中枢神経系については、構造と各部位の働きを、末梢神経系については、自律神経系の特徴を理解する。
7	呼吸器の機能 体温調節機構	講義	呼吸器の構造と機能を学ぶ。特に、肺胞と細胞におけるガス交換の仕組み、および、呼吸運動の制御の仕組みを理解する。また、体温調節の機構についても学ぶ。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	生化学 Biochemistry	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	山田 篤/矢野 文子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	木/2.3限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有した講師が大学教員でもある教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な生化学を講義する。 山田篤:【昭和大学歯学部口腔生化学講座】・【生化学・栄養学】・【日本骨代謝学会・歯科基礎医学会・日本口腔組織培養学会】・【骨代謝研究】 矢野文子:昭和大学歯学部口腔生化学講座/東京大学医学部附属病院整形外科 研究員 歯科医師、口腔外科認定医						
目的	生命活動の概要として、生体における構成要素、中でも糖質、脂質、タンパク質について学ぶ。また、歯と口の生化学について学ぶ。						
科目概要	I編、生命活動の概要では、生体の構成要素について学ぶ。II編、歯と口の生化学では歯と歯周組織の生化学および硬組織の生化学について学ぶ。						
到達目標	①生体における構成要素について理解する。②生体における化学反応について理解する。③糖質、脂質、アミノ酸代謝について理解する。④生体における恒常性の維持について理解する。⑤歯と歯周組織の生化学について理解する。⑥硬組織の生化学について理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	栄養と代謝(医歯薬出版)		事前事後 学習と その内容		事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布資料を再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	なし。						
特記事項	【プリント(補助教材)】使用予定有り。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	I編1章:生体における構成要素	講義	生体における構成要素(教科書p6-22) 1. 細胞の役割 2. 生体構成成分と栄養素
2	I編2章:生体における化学反応	講義	生体における化学反応(教科書p23-28) 1. 消化と吸収 2. 代謝
3	I編3章:糖質代謝、脂質代謝	講義	糖質代謝、脂質代謝(教科書p29-37) 1. エネルギー代謝の全体像 2. 糖質代謝、脂質代謝
4	I編4章:タンパク質とアミノ酸代謝	講義	タンパク質とアミノ酸代謝(教科書p38-43) 1. タンパク質とアミノ酸の分解 2. タンパク質の合成
5	I編5章:生体における恒常性の維持	講義	生体における恒常性の維持(教科書p44-47) 1. 恒常性とは 2. 生体における恒常性の大切さ
6	II編1章:歯と歯周組織の生化学	講義	歯と歯周組織の生化学(教科書p50-64) 1. 歯と歯周組織 2. 結合組織 3. 歯
7	II編2章:硬組織の生化学	講義	硬組織の生化学(教科書p65-80) 1. 血清中のカルシウム 2. 石灰化の仕組み 3. 骨代謝
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する

科目名 (英)	口腔解剖学 Oral Anatomy	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	瀬川 和之
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	2				曜日/時間

講師紹介 歯科医師として臨床経験を有した講師が大学教員としての教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な口腔解剖学を講義する。
瀬川 歯科医院開業医(院長) 昭和大学歯学部兼任講師 大森 歯科医師会、東京歯科大学学会、昭和大学学会他所属
顎関節、下顎骨、関節軟骨の構造研究

目的 以下の1)~5)の各項目を理解し、歯科臨床との関連について考える。

科目概要 1)口腔機能に関連する口腔諸構造の形態 2)口腔諸構造の土台をなす骨系 3)咀嚼運動に関連する筋系 4)上記構造物に分布する脈管系
5)上記構造物に分布する神経系

到達目標 口腔と関連する頭頸部各部位の名称と機能を説明できる。

評価方法 学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。
()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。
■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート

教科書	口腔顎顔面解剖ノート(学建書院)	事前事後 学習と その内容	最初の講義で教示する口腔解剖学の勉強法を参考にする。
参考図書	歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学		
特記事項	12色以上の色鉛筆を毎時間必携。		

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	器官としての口腔の意義	講義	口腔の役割と位置を理解する。顔面における口部の存在意義を考える。「顎顔面口腔解剖ノート」で解剖学的部位の着色を完成させ、各構造物の位置、大きさを理解する。対面講義の場合、食物流路についての動画を使用する。
2	口腔の区分と構造①	講義	口腔の区分(口腔前庭と固有口腔)が実際にどのような部位にあるかを理解し、各区分の口腔機能を考える。口腔前庭に見られる構造物を列挙できるようにする。「顎顔面口腔解剖ノート」で解剖学的部位の着色を完成させ、各構造物の位置、大きさを理解する。
3	口腔の区分と構造②	講義	固有口腔に見られる構造物を列挙できるようにする。口蓋と舌の働きについて考える。特に舌については、舌乳頭の種類とそれぞれの役割、存在部位を理解する。「顎顔面口腔解剖ノート」で解剖学的部位の着色を完成させ、各構造物の位置、大きさを理解する。
4	唾液と唾液腺	講義	唾液腺の種類、存在部位、各唾液腺液(唾液)の性状を理解する。各唾液腺の唾液放出部を確認する。口峽と咽頭の構造を理解し、咀嚼・嚥下の機序について考える。「顎顔面口腔解剖ノート」で解剖学的部位の着色を完成させ、各構造物の位置、大きさを理解する。
5	頭蓋骨の構成	講義	頭蓋骨の種類と数を列挙できるようにするとともに、相互の組み合わせや各頭蓋骨の位置を把握する。頭蓋骨にある孔や突起などを確認する。「顎顔面口腔解剖ノート」で解剖学的部位の着色を完成させ、各構造物の位置、大きさを理解する。
6	上顎骨と下顎骨の構造	講義	頭蓋骨には、重要な血管や神経が通過する孔、筋が付着する部位があることを確認、理解する。副鼻腔とは何か、どこに有り、どのような役割があるかを理解する。上顎骨と下顎骨における重要な構造(今後の授業で学ぶ筋、脈管、神経学と関連する)を確認し、理解する。
7	顎関節の基礎	講義	顎関節はどこにあり、どのような働きがあるかを考える。顎関節の構造を確認、理解する。「顎顔面口腔解剖ノート」で解剖学的部位の着色を完成させ、各構造物の位置、大きさを理解する。
8	咀嚼と関連する筋群①	講義	筋肉の運動と筋-骨付着(起始・停止)の基本を理解する。咀嚼運動と関連する筋群(表情筋、舌筋、舌骨上筋、咀嚼筋)を列挙でき、それらの骨付着部や働きを理解する。「顎顔面口腔解剖ノート」で解剖学的部位の着色を完成させ、各構造物の位置、大きさを理解する。
9	咀嚼と関連する筋群②	講義	咀嚼、嚥下と関連する筋群(表情筋、舌骨上筋、咀嚼筋、舌筋、頸筋など)の存在部位と作用について理解する。顎関節の構造と下顎運動の関連を理解する。「顎顔面口腔解剖ノート」で解剖学的部位の着色を完成させ、各構造物の位置、大きさを理解する。
10	頭頸部の脈管系	講義	心臓から頭頸部へ至る血管系と、それら血管系の頭頸部での分布を理解する。内頸動脈と外頸動脈における分枝の種類とそれらの分布領域を理解する。
11	外頸動脈の分枝と口腔のリンパ系	講義	口腔のリンパ系(口蓋扁桃、舌扁桃、咽頭扁桃、リンパ管、リンパ節)の種類を理解し、口腔疾病とリンパ系との関連を想定する。「顎顔面口腔解剖ノート」で解剖学的部位の着色を完成させ、各構造物の位置、大きさを理解する。
12	脳神経	講義	神経系の構成を確認する。中枢神経の構成を理解する。脳神経12対の全てが列挙できるようにする。脳神経12対の部位と神経機能を理解する。「顎顔面口腔解剖ノート」で解剖学的部位の着色を完成させ、各構造物の位置、大きさを理解する。
13	三叉神経	講義	三叉神経の構成を理解する。上顎神経、下顎神経の分枝の種類を列挙できるようにする。各分枝の支配領域と機能を理解する。「顎顔面口腔解剖ノート」で解剖学的部位の着色を完成させ、各構造物の位置、大きさを理解する。
14	舌咽神経、顔面神経、舌下神経	講義	舌咽神経、顔面神経、舌下神経の分枝の支配領域と機能を理解する。顎顔面の機能と血管、神経分布の関係を把握する(例:口腔粘膜と三叉神経、顎動脈の関係など)。「顎顔面口腔解剖ノート」で解剖学的部位の着色を完成させ、各構造物の位置、大きさを理解する。
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯牙解剖学 (組織発生学含む) Dental Anatomy	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	中村 雅典
		授業形態	講義		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	2			曜日/時間	火/1.2限
講師紹介	歯科医師として東北大学病院での臨床経験を有した講師が、大学での教育経験を活かし歯科衛生士に必要な歯牙解剖学を講義する。 【所属】昭和大歯学部 客員教授、日本歯科大学生命歯学部 客員教授 【専門分野】解剖学・組織学 【所属学会】日本解剖学会、歯科基礎医学会等						
目的	歯科医療に携わる医療人として歯と歯周組織の基本的構造を理解できるようになる。						
科目概要	スライドを用いて、実際の歯と歯周組織の組織構造を見ながらその組織構造における知識の習得を行う。						
到達目標	歯科衛生士として必要な乳歯・永久歯の肉眼的正常ならびに異常な形態と歯列状態を理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	歯の解剖学(わかば出版)		事前事後 学習と その内容 事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布資料を再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。				
参考図書	歯・口腔の構造と機能・口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学						
特記事項	なし。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯の概論	講義	歯の種類と名称、基本的形態、歯式を理解する。
2	永久歯(前歯)	講義	永久歯(前歯)の形態を理解する。
3	永久歯(小臼歯)	講義	永久歯(小臼歯)の形態を理解する。
4	永久歯(上顎大臼歯)	講義	永久歯(上顎大臼歯)の形態を理解する。
5	永久歯(下顎大臼歯)	講義	永久歯(下顎大臼歯)の形態を理解する。
6	乳歯	講義	乳歯(乳前歯、乳臼歯)の形態と特徴を理解する。
7	歯の配列と咬合・歯の異常	講義	歯の配列と咬合・歯の異常について理解する。
8	エナメル質	講義	エナメル質の特徴、構造について理解する。
9	象牙質、歯髄複合体	講義	象牙質、歯髄の特徴、構造について理解する。
10	セメント質、歯根膜、歯槽骨	講義	セメント質、歯根膜、歯槽骨の特徴、構造について理解する。
11	歯肉	講義	歯肉の特徴、構造について理解する。
12	歯の発生過程	講義	歯の発生過程について理解する。
13	歯の萌出、脱落と交換	講義	歯の萌出、脱落と交換について理解する。
14	顔面と口腔の発生	講義	顔面と口腔の発生を理解する。
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	口腔生理学 Oral Physiology	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	青木 文子/中山 希世美
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	1			曜日/時間	水/3.4限
講師紹介	青木 文子: 歯科医師としての臨床経験と豊富な教員経験を活かし、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 【所属】昭和大学・歯学部 口腔生理学講座講師【専門分野】生理学・口腔生理学【所属学会】日本生理学会・歯科基礎医学会【研究】咀嚼、嚥下 中山 希世美: 臨床検査技師としての臨床経験と豊富な教員経験を活かし、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 【所属】昭和大学・歯学部 口腔生理学講座講師【専門分野】生理学・口腔生理学						
目的	生体の様々な臓器や器官の分布や内臓各気管の構造について理解し、歯科臨床に応用出来るようになる。						
科目概要	口腔領域の疾患の診断、治療の基礎となる知識を身につけるために、細胞、組織、臓器の機能とそのメカニズムの理解を深める。						
到達目標	人体を構成する細胞、組織、臓器の機能について説明できる。 各細胞、組織、臓器の機能が保たれるメカニズムを説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	口腔生理学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	授業までに教科書の該当部分に目を通すことで、授業内容をある程度把握しておくことにより理解が深まる。 毎回授業終わりに小テストを行い、授業内容の確認を行う。		
参考図書	なし。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	内分泌腺の種類と機能	講義	主要な内分泌腺の種類と、各内分泌器官から放出されるホルモンの機能を学ぶ。 また、生殖器の機能を理解する。
2	口腔生理学を学ぶ意義 口腔感覚	講義	口腔生理学を学ぶ重要性を理解する。 歯髄、歯根膜および口腔粘膜の感覚について学び、その特徴を説明できるようになる。
3	味覚と嗅覚の役割と特性	講義	味覚について、その役割、味覚閾値、順応、味覚受容器、伝達機構を学ぶ。 嗅覚の役割と特性、嗅覚受容器と神経機構について学ぶ。
4	下顎運動と顎反射	講義	下顎位の種類、下顎運動と関与する筋の種類、顎反射の種類と特徴を学ぶ。 また、咀嚼能力の評価法についても理解する。
5	嚥下と嘔吐の機序	講義	嚥下に関わる器官と、嚥下時の食塊の動きを学ぶ。 また、嘔吐の機序と神経機構を学ぶ。
6	唾液の機能と分泌機序	講義	唾液の成分、分泌機構および唾液分泌の神経性調節について学ぶ。
7	発声機序	講義	発声機序を学ぶ。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	病理学・口腔病理学	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	奥田 光江
	Pathology Oral Pathology	授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	月/3.4限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を活かし、歯科衛生士に必要な病理学・口腔病理学を講義する。 Hikari矯正歯科クリニック院長						
目的	口腔領域にみられる疾患の病態に関して組織の性状だけでなく、他の臨床的教科の診断・病態と関連づけて理解する。 さらに口腔病変と全身疾患との関連性についても理解を深める。						
科目概要	病気についての基本事項を理解し、さらに口腔領域の様々な組織に発生した病変について習得し、歯科臨床に応用できるようになる。						
到達目標	病理学を通じ人体に生じる病気のあり方を理解し、教科書の到達目標を理解できるようにする。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	病理学・口腔病理学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	授業前に教科書を予習しておく事で、講義内容をスムーズに理解する事ができる。講義後は、配布資料と教科書を併せて復習する事で理解が深まる。		
参考図書	なし。						
特記事項	【資料(補助教材)】講義ごとに資料を配布する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	第1章 歯の発育異常 第11章 口腔領域の奇形	講義	歯の機械的および化学的損傷 形態的、大きさ、数、位置、咬合に関した異常を理解する。
2	第2章および第3章 歯の付着物および沈着物 エナメル質う蝕	講義	象牙質とセメント質の増生および歯髄と歯根膜の石灰化 歯の表面に付着する原因、性状に関して理解する。 象牙質、セメント質、歯髄、歯根膜の病的変化について理解する。 う蝕の発生、原因、分類について理解する。
3	第4章 象牙質う蝕および歯髄の病変	講義	歯髄病変の分類(歯髄炎・根尖性歯周炎)、性状について理解する。
4	第5章 歯周組織の病変	講義	歯周組織は歯科衛生士にとって予防処置を行うにあたり最も大切である。 特に病変の分類、症状に関しては理解する。
5	第6章 口腔粘膜の病変 全身疾患と口腔粘膜病変との関連 前癌病変を含む	講義	この分野は主に口腔外科とリンクする病変であり、病態、特徴的所見を理解する。
6	第7章 口腔領域の嚢胞、腫瘍	講義	嚢胞と腫瘍の区別が理解でき、臨床において異常を見つける目を養う。
7	第8章 口腔癌 第9章 顎骨の病変 第10章 唾液腺の病変 第12章 口腔領域の加齢変化	講義	病態の進行と加齢の影響を見分ける知識と目を養う。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	薬理学・歯科薬理学 Pharmacology・Dentistry Pharmacology	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	今井 敏夫/千葉 忠成
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	月・水/1.2限・3.4限
講師紹介	【今井 敏夫】:薬剤師としての臨床経験、教育経験を踏まえて、歯科衛生士に必要な薬理学・歯科薬理学を講義する。【所属】日本歯科大学 名誉教授【専門分野】生理学・衛生学【研究】骨代謝のメカニズムの解明 【千葉 忠成】:薬剤師としての臨床経験、教育経験を踏まえて、歯科衛生士に必要な薬理学・歯科薬理学を講義する。【所属】日本歯科大学生命歯学部 生化学講座【専門分野】生化学【研究】がん発生のメカニズムの解明						
目的	歯科衛生士教育における薬理学分野では薬物の性質、薬理作用、作用機序および副作用を理解する。						
科目概要	近年は高齢化に伴い、高血圧、心疾患、脳疾患などの循環器疾患のほかに糖尿病などの成人病をもち、多数の薬物を投与している患者が歯科を受診するケースが増えてきている。歯科以外での治療薬が歯科治療に与える影響や使用する薬の相互作用に関する知識の理解を深める。						
到達目標	薬理学を通して基礎と臨床の接点を理解し、歯科治療に使用される薬物だけでなく、全身疾患への治療薬の知識を得ることを目標とする。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	薬理学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	毎回、講義の終わりに、その日の講義内容の理解度を確認するために5分程度の小試験を行う。		
参考図書	授業内容により PC (PowerPoint) を用いる。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	薬物の定義・作用を理解する。	講義	薬物の定義と分類 薬物療法 疾病の回復の促進と薬
2	からだにおける薬物の働きを理解する。	講義	薬物の機序作用 身体における薬物の働き 薬物の併用・連用
3	薬物の分類を理解する。	講義	医薬品の分類と取り扱い 薬物の分類・表示・保管 医薬品の開発
4	中枢神経系の機能を理解する。	講義	中枢神経系と薬物 中枢神経系に作用する薬物
5	末梢神経系の構造と機能を理解する。	講義	末梢神経系と薬物 1 末梢神経系に作用する薬物
6	局所麻酔薬の作用機序および構造・分類を理解する。	講義	末梢神経系と薬物 2 局所麻酔薬
7	血液に関連する薬物・作用・副作用を理解する。	講義	血液凝固 血液に関連する薬物
8	問題解説	講義	問題解説
9	循環器系および呼吸系の薬物・作用・副作用を理解する。	講義	循環系に作用する薬 呼吸系に作用する薬
10	抗炎症薬を分類し、薬理作用を理解する。	講義	炎症の起こる仕組み 炎症に作用する薬
11	抗感染症薬を分類し、その作用機序を理解する。	講義	感染症の種類 抗感染症薬
12	消毒薬を分類し、その作用機序を理解する。	講義	消毒薬の作用機序 消毒薬の種類
13	ホルモンの作用および代謝性疾患を理解する。	講義	ホルモン 代謝性疾患治療薬
14	齲蝕予防・歯周治療に用いる薬物を理解する。	講義	齲蝕の予防に用いる薬物 歯周治療における薬物療法
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	隣接医学 Adjacent Medical Discipline	年次	1	必修科目		科目 責任者	室伏 貴久
		授業形態		講義		有	
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	月/1.2限
講師紹介	歯科医師として、臨床経験を有し、歯科医療に関連する内科疾患について講義する。 【所属】日本大学歯学部 兼任講師 【専門】生化学 【学会】IADR・歯科基礎医学会・日本分子生物学会 【研究】歯肉癌・細胞内の起炎物質 【臨床】室伏歯科にて勤務						
目的	歯科診療に必要な内科疾患の知識を習得する。						
科目概要	歯科診療が可能かどうかを判断するために、必要な症候の種類とそれに対応する疾患の種類と特徴を理解し、習得する。歯科診療中の緊急事態を事前に回避するため、または、それに対応するための知識を習得する。						
到達目標	全身および口腔顎顔面の診方を説明できる。 循環器疾患・呼吸器疾患・肝疾患・腎疾患・代謝疾患・内分泌疾患・血液疾患・自己免疫疾患を説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科衛生士のための口腔内科(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	毎回の授業終わりに小テストを行う。試験は基本的に歯科衛生士として常識レベルの問題を出題する。最後のまとめ授業後、試験対策のための演習問題資料をよく復習すること。		
参考図書	資料						
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いる場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	糖尿病、腎臓病	講義	糖尿病、腎臓病について説明できる。糖尿病患者さんの歯科治療の注意点について説明できる。腎疾患の患者さんの歯科治療の注意点について説明できる。腎臓の働きについて説明できる。
2	肝疾患、AIDS、梅毒、結核	講義	肝臓の働きを理解し覚える。肝疾患(肝炎、肝硬変、等)の種類と症状を理解し覚える。梅毒について説明できる。結核について説明できる。
3	喘息、心疾患、脳血管疾患、睡眠時無呼吸症候群	講義	呼吸器疾患(気管支喘息、COPD、肺炎、肺血栓塞栓症、睡眠時無呼吸症候群、過換気症候群、肺結核、等)の種類と症状を理解し覚える。脳血管疾患(脳卒中、脳梗塞等)の種類と症状を理解し覚える。心疾患(心筋梗塞、狭心症等)の種類と症状を理解し覚える。
4	ビタミン欠乏症、骨粗鬆症、甲状腺疾患	講義	代謝疾患(骨粗鬆症、ビタミン欠乏症・過剰症、等)の種類と症状を理解し覚える。内分泌疾患の甲状腺機能亢進症・低下症について説明できる。
5	アレルギー、自己免疫疾患、血液疾患	講義	アレルギー疾患の特徴や型について説明できる。自己免疫疾患について説明できる。血液疾患(貧血、出血性素因、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、等)の種類と症状を理解し覚える。
6	口腔粘膜病変	講義	口腔内粘膜病変の種類(色素沈着、手足口病、ヘルペス、白板症、扁平苔癬、Candida症)等の特徴を説明できる。
7	総復習、まとめ	講義	第1回～第6回までの内容を復習し、定期試験対策をする。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	微生物学・口腔微生物学 Microbiology・Oral Pathology	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	桑田 啓貴
		授業形態	講義		有	開講区分	
		時間数	15	授業回数	8		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	1			曜日/時間	火/3.4限
講師紹介	歯科医師であり、臨床経験を有した講師が大学教員としての経験を踏まえて歯科衛生士に必要な微生物学・口腔微生物学の講義をする。 【所属】昭和大学歯学部口腔微生物学講座 【専門分野】微生物学、免疫学 【所属学会】日本細菌学会、日本免疫学会、歯科基礎医学会						
目的	安全で効果的な歯科衛生士業務を行うために、微生物の感染と宿主抵抗性(免疫)に関する基礎知識を学び、理解する。						
科目概要	①ヒトの身体に備わっている免疫機能 ②微生物が原因となる口腔内疾患③化学療法と滅菌法。消毒法について、スライドとプリントを用いた講義を行う。スライドやプリントでは写真やイラストを多用し、視覚的な理解を深める。						
到達目標	ヒトの免疫応答の流れを概説できる。 口腔内の感染症の原因となる微生物の特徴を説明できる。 化学療法と消毒法、滅菌法の原理と効果を説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	微生物学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	予習の必要はない。毎回の授業の終わりに小テストを行う。 授業の後の小テストを解く時に、教科書の該当箇所を読み、配布資料やノートを参考にして講義の復習を30分程度行くと正確な理解につながる。		
参考図書	必要に応じて授業内で紹介する。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	宿主防御機構を学び、微生物感染における役割と重要性を理解する。 非特異的防御機構(主に自然免疫)を理解する。	講義	私たちの体を守っている「免疫系」について学んでいきましょう。 * 免疫学で登場する「免疫担当細胞および因子」を覚えましょう。 * 「非特異的」と「特異的」の違いが説明できるようになりましょう。 * 「自然免疫」とはどんな免疫でしょうか。
2	リンパ球が主体となる特異的防御機構(獲得免疫)を学ぶ。 抗体の種類と働きを覚え理解する。	講義	* 「自然免疫」から特異的防御機構「獲得免疫」への流れを勉強します。キーワードは「抗原提示細胞」「MHCクラスII」「ヘルパーT細胞」「T細胞レセプター」です。 * 「抗体」の種類・働きについて学びます。抗体の構造と種類は覚えましょう。 * 「ワクチン」はどんなメカニズムで効果を発揮するのでしょうか。
3	免疫異常による疾患について理解する。 ワクチンの種類・特徴について理解する。 アレルギーについて学び理解する。	講義	* 免疫の異常によりどのような疾患が起こるのでしょうか。 * 自己免疫疾患、免疫不全とは何でしょうか。様々な免疫疾患の種類を覚えてください。 * アレルギーについて勉強します。4つのアレルギー型と特徴を覚えましょう。
4	化学療法について学び、その種類・特徴およびそれらが抱える問題点について学び理解する。滅菌・消毒について学び、院内感染対策との関係を理解する。	講義	* 抗菌薬の種類と作用について学びます。「選択毒性」「薬剤耐性問題」とか何でしょうか。 * 感染予防の概念と標準予防策について理解しましょう。 * 滅菌と消毒の違いは何でしょうか。それらの方法と主な消毒薬の特徴を覚えましょう。
5	口腔常在微生物1 口腔細菌叢の成り立ちについて理解する。 デンタルプラークの形成機序を理解する。	講義	* デンタルプラークとは何でしょうか。 * 歯磨きをしないとどうなるのでしょうか。 * キーポイントはペリクル、口腔細菌、デンタルプラークです。
6	口腔常在微生物2 う蝕について、関連細菌、形成過程を学び理解する。 歯内感染症の概要を理解する。	講義	* みなさんも一度は聞いたことのあるミュータンス菌。 * う蝕はどのようにできるのでしょうか。 * う蝕を予防するにはどうすれば良いのでしょうか。微生物の視点から考えてみましょう。
7	口腔常在微生物3 歯周病の病態とその関連細菌について理解する。歯科で見られるその他の口腔感染症を理解する。	講義	* 歯周病とはどんな疾患でしょうか。 * 急性と慢性の違いを理解しましょう。 * 重要な細菌名を覚えるのがポイントです。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	栄養学 Nutrition	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	笹 清人/矢野 文子
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	1				曜日/時間
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有した講師が大学教員でもある教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な栄養学を講義する。 矢野文子:【昭和大学歯学部口腔生化学講座】・【生化学・栄養学】・【日本骨代謝学会・歯科基礎医学会】・【骨代謝研究】 笹清人:【昭和大学歯学部口腔生化学講座】・【生化学・栄養学】・【日本骨代謝学会・歯科基礎医学会・日本口腔組織培養学会】・【骨代謝研究】						
目的	栄養学を学ぶことで栄養指導を含めた体調管理を行える歯科衛生士の育成を目的とする。						
科目概要	Ⅱ編、歯と口の生化学では、口腔に特徴的な唾液、プラークに着目し、その構成成分やそこで生じる現象を生化学的に学ぶ。Ⅲ編、Ⅳ編、栄養の基礎と栄養指導および食生活と食品に関して理解する						
到達目標	①唾液の生化学について理解する ②プラークの生化学について理解する ③栄養の基礎知識について理解する ④食事摂取基準について理解する ⑤栄養素の働きについて理解する ⑥食生活と健康について理解する ⑦食べ物と健康について理解する						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	栄養と代謝(医歯薬出版)		事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布資料を再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。			
参考図書	なし。						
特記事項	【資料(補助教材)】使用予定有り。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	Ⅱ編3章:唾液の生化学について理解する (Ⅰ; 唾液の組成と機能)	講義	唾液の組成(無機質、有機質等)のそれぞれの機能(教科書p81-88) 1. 唾液の組成と生理的機能について理解する。
2	Ⅱ編4章:プラークの生化学について理解する (プラークの生物活性、プラークによるう蝕 発症機構、プラークによる口臭発症機構、歯 周疾患発症機構)	講義	Ⅰ; プラークの生物活性、Ⅱ; プラークによるう蝕発症機構、Ⅲ; プラークによる口臭発症 機構、Ⅳ; 歯周疾患発症機構(教科書p90-112) 1. プラークの生化学について理解する。
3	Ⅲ編1章:栄養の基礎知識について理解する (Ⅰ; 食生活と栄養、Ⅱ; 栄養素の消化・吸 収)	講義	Ⅰ; 食生活と栄養、Ⅱ; 栄養素の消化・吸収(教科書p116-126) 1. 近年の日本人の栄養摂取状況を説明できる。 2. 体格指数(BMI)の計算ができる。 3. 栄養素の消化と吸収について理解する。
4	Ⅲ編2章:食事摂取基準について理解する (Ⅰ; 推定エネルギー必要量、Ⅱ; 基礎代 謝、Ⅲ; 日本人の食事摂取基準)	講義	Ⅰ; 推定エネルギー必要量、Ⅱ; 基礎代謝、Ⅲ; 日本人の食事摂取基準(p128-139) 1. 3大栄養素のエネルギー量が説明できる。 2. 推定エネルギー必要量が計算できる。 3. 「日本人の食事摂取基準」の各指標が説明できる。
5	Ⅲ編3章:栄養素の働きについて理解する。	講義	Ⅰ; 糖質の栄養的意味、Ⅱ; タンパク質の栄養的意味、Ⅲ; 脂質の栄養的意味、Ⅳ; ビタ ミンの栄養的意味、Ⅴ; ミネラルの栄養的意味、Ⅵ; 水の栄養的意味、Ⅶ; 食物繊維の栄 養的意味(教科書p140-174)
6	Ⅳ編1章:食生活と健康について理解する。	講義	国民の健康と栄養、望ましい食生活、ライフステージ別の栄養と調理(p178-201) 1. 日本人の死因の順序 2. 現代の国民栄養の課題を説明 3. 国民健康・栄養調査、健康 日本21(第二次)、食事バランスガイド 4. 特別用途食品、食育基本法 5. ライフステージ別 の栄養と調理
7	Ⅳ編2章:食べ物と健康について理解する。	講義	食品の成分と分類、食べ物の物性(教科書p203-210) 1. 3色食品群、6つの基礎食品について理解する。 2. 5つの基本味を説明できる。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	口腔衛生学 I Oral Hygiene Study I	年次	1	必修科目		科目 責任者	一宮 頼子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	火/1.2限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有した講師が大学教員でもある教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 日本歯科大学 客員教授・口腔衛生学・口腔衛生学会 専門医、代議員						
目的	歯科疾患の全身的要因、生活習慣、社会的要因および環境要因リスクを知り、リスクを取り除くことにより、口腔の健康と機能の維持増進をはかり人々の健康状態と生活の質を向上させることのできる歯科衛生士として社会貢献できるよう知識を習得する。						
科目概要	口腔の疾患の予防や、健康増進のための知識を習得し、歯科臨床に応用できるよう理解を深める。						
到達目標	①う蝕発生のメカニズムを説明できる。 ②う蝕の予防法を類別することができる。 ③フッ化物を用いたう蝕予防法を列挙することができる。 ④歯周疾患の予防法を列挙できる。 ⑤う蝕、歯周疾患以外の口腔内疾患の特性について述べるることができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	保健生態学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布資料を再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	配布資料						
特記事項	なし。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科疾患の疫学	講義	う蝕、歯周疾患、その他口腔疾患の疫学的特性を具体的に述べるることができる。
2	う蝕のメカニズム	講義	う蝕発生のメカニズム、発生要因について説明することができる。
3	う蝕活動性、う蝕の予防法	講義	う蝕活動性試験の検体、評価法などについて述べるることができる。 う蝕リスク分類の活用法を説明することができる。 う蝕の予防法を区分することができる。 う蝕の予防法を発生要因によって類別することができる。
4	フッ化物応用①	講義	わが国のフッ化物応用について列挙することができる。 フッ素の一般特性について述べるることができる。 フッ化物の急性毒性と慢性毒性の特徴をそれぞれ説明することができる。 フッ化物の局所応用法と全身応用法を類別することができる。
5	フッ化物応用②	講義	フッ化物の応用方法を具体的に述べるることができる。 フッ化物のう蝕予防メカニズムを説明することができる。 ライフステージに応じたフッ化物応用法を提示することができる。
6	歯周疾患の予防	講義	歯周疾患の炎症の広がりを段階的に説明することができる。 歯周疾患の種類を区分することができる。 歯周疾患のリスクファクターを列挙することができる。 歯周疾患の予防法、定期健診の重要性を説明することができる。
7	口腔内疾患・異常の予防	講義	口内炎の分類、要因について述べるることができる。 口腔癌の実態、要因について説明することができる。 不正咬合、顎関節症、口臭の分類をすることができる。 口腔乾燥症の要因について説明することができる。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	衛生統計学 Hygiene Statistics	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	尾崎 哲則 網干 博文 寺嶋 利子 本橋 佳子
		授業形態	講義		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	1			曜日/時間	木/2・3限
講師紹介	尾崎哲則: 日本大学歯学部元教授。地域保健学、医療管理学を専門とする。歯科疾患実態調査をはじめ、国や自治体の衛生統計に関与した経験から、統計のツボを分かり易く説明します。網干博文: 日本大学歯学部特任教授。法医学を専門とし、基本統計量について分かり易く講義をしています。寺嶋利子,本橋佳子: 日本大学歯学部非常勤講師。口腔衛生学会・公衆衛生学会の認定資格を有し歯科医師としての現場経験も踏まえ、分かりやすい講義をします。						
目的	歯科衛生士として必要である基本的な歯科衛生統計・疫学手法について、実際に使えることを目的とする。						
科目概要	歯科疫学の基礎から、その分析法としての統計学、集計、分析に関して学び、知識を身につける。						
到達目標	統計の基本的手法と統計量について説明できる。 相関、推定・検定について概説できる。 スクリーニング試験について概説できる。 国家統計について概説できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	保健情報統計学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	毎回授業の後半に小テストを行う。 次回授業の前に教科書を音読すると、授業を積極的に受けることができる。この時間に30分程度要することが想定される。 また、授業後は演習問題を再度行なうことが重要であり、この時間に20分程度要することが想定される。		
参考図書	なし。						
特記事項	【資料(補助教材)】 適宜配布する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	衛生統計の役割	講義	地域歯科保健での衛生統計のもつ役割について理解する。 「数」のもつ意味について理解する。 健康事象を数値に置き換える意義について理解する。
2	基本統計量1	講義 演習	基本的なデータのまとめ方が説明できる。 度数分布表・度数分布図を作成できる。
3	基本統計量2	講義 演習	集団の代表値(平均・最頻値・中央値)が説明できる。 集団のバラツキ(偏差・分布・標準偏差)が説明できる。
4	標本抽出と母集団	講義	標本抽出法について説明できる。 基本的なデータ収集方法(横断調査・縦断調査)について説明できる。
5	推定・検定	講義	2つの数の関係でよく用いられる相関の概説ができる。 統計処理でよく用いられる検定・推定の概説ができる。
6	スクリーニングと統計	講義 演習	スクリーニング試験について概要が説明できる。 代表的評価項目である鋭敏度・特異度が説明できる。
7	国家統計	講義	国家統計の種別が説明できる。 代表的な国家統計(国勢調査・人口動態統計調査・患者調査・学校保健統計調査・歯科疾患実態調査)を概説できる。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	社会福祉論 Social Welfare Theory	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	デンタルサポート株式会社 城 明妙
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	水/3.4限
講師紹介	訪問歯科診療や施設での歯科衛生士業務、嚥下評価の臨床経験を持つ歯科衛生士。歯科衛生士学校の講義及び、様々な場所や多職種において口腔ケアに関する研修を実施している。介護保険法に基づく業務を多数経験している。						
目的	社会福祉制度の中で、医療・保健・福祉の横の連携が重要となってくるため、歯科衛生士が社会福祉分野を理解することは不可欠なことである。社会福祉の基礎、および地域福祉の理論、介護保険について包括的に学ぶことを目的としている。						
科目概要	日本における社会福祉制度を理解することは、医療・介護・福祉士に関わる歯科衛生士として非常に重要です。法律、制度を理解し歯科衛生士として社会で果たす役割について整理します。						
到達目標	歯科衛生士が社会福祉分野を理解していなければ地域に根差した医療の提供は難しい。従来の社会福祉制度による施設中心の福祉サービスが見直され、生活の場を在宅に拠点を置くことの重要性が強調されている。訪問歯科等在宅福祉のサービスとの連携を含めて、地域福祉について学ぶことも重要である。社会福祉とは何かそして、介護保険制度の中での地域包括ケアシステムについて理解することを目的としている。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	パワーポイント出力資料			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布資料を再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	授業内で案内する。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	社会福祉制度の概要	講義	1、社会福祉の概要 2、社会福祉の歴史 3、社会福祉分野で使われる用語 4、高齢者の保健、福祉、医療制度
2	社会福祉制度の目的と現状	講義	1、これからの社会福祉の目的と方向性 2、日本の高齢化の特徴 3、平均寿命、健康寿命、高齢化率など 4、高齢者福祉制度の課題が理解できる
3	社会保険制度を理解する	講義	1、介護保険制度とは何か 2、介護保険制度の目的や仕組み 3、要支援・要介護の区分 4、介護保険制度のサービス内容
4	介護保険制度①	講義	1、介護保険制度(改定内容含む)におけるサービスの種類や内容 2、介護支援専門員の役割 3、介護保険サービス利用時の注意点や課題
5	介護保険制度②	講義	1、地域密着型の事業について 2、介護予防施策は何か 3、口腔機能向上の目的と内容 4、歯科衛生士が関わる介護保険制度
6	介護保険制度③	講義	1、高齢者施設の種別と役割 2、高齢者施設における歯科衛生士の役割 3、介護予防教室での歯科衛生士の役割 4、地域包括ケアシステム
7	総まとめ	講義	日本における歯科医療に関わる社会福祉制度の理と介護保険制度の整理。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科衛生学総論 Dental Hygienist Outline	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	平 早由加
		授業形態	講義		有	開講区分	前期
		時間数	15	授業回数	8		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	1			曜日/時間	月/1.2限
講師紹介	歯科衛生士として臨床経験23年であり実習指導衛生士でもある教員が、歯科衛生士にとって必要な歯科衛生学総論を講義する。フリーランスとして活動しており、臨床現場での活動の他に加えスタディグループの運営、セミナー講師等も行っている。						
目的	歯科衛生士像を構築することで歯科医療の基礎となる知識を総合的に習得する。						
科目概要	歯科衛生士の役割や使命を明確にするため、歯科臨床で単廊する法的に定められた業務について学習資料を通じた講義や演習で総合的に理解する。						
到達目標	①歯科衛生士としての職業を理解し業務の責務を説明できる。口腔を通して全身の健康について理解し説明できる。 ②歯科医療倫理の概要について理解し説明できる。・歯科医療安全・医療管理を理解し説明できる。 ③歯科衛生士過程を学び歯科衛生士の業務の基本を理解し説明と実践ができる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科衛生学総論(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	予習として事前に授業に該当するページの教科書を読んでおくことが望ましい。授業の最後に小テストを行い理解度を確認する。		
参考図書	なし。						
特記事項	全てにおいて写真撮影・録画は禁止とする。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科衛生学について理解する 歯科衛生士の歴史と背景および その役割について理解する	講義	歯科衛生学とは 歯科衛生活動について 歯科衛生の歴史とその背景 歯科衛生業務と歯科衛生士の役割
2	予防の概念と歯科衛生の考え方 歯科衛生過程	講義	予防の概念 歯科衛生の考え方 歯科衛生過程の活用とその利点
3	歯科衛生士と歯科衛生士法	講義	歯科衛生士法と歯科衛生業務(業務独占・名称独占)について 歯科衛生士に求められる技能
4	安全管理	講義	安全管理 歯科衛生士が行うリスクマネジメントについて 感染予防対策について
5	歯科衛生士と医療倫理	講義	歯科衛生活動のための理論について (ヒューマンニーズ理論・EMB・クリティカルシンキングなど)
6	歯科衛生士の活動と組織	講義	歯科衛生活動の現状と活動の場 歯科衛生士と組織 海外における歯科衛生士
7	1～6までのまとめ授業 定期試験に向けて	講義	歯科衛生学総論まとめ
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名	歯科臨床概論	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	古平 衣美
		授業形態	講義		有		
(英)	Dentistry Clinical Pathology Outline	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	1			曜日/時間	月/3.4限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有し、大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 歯学博士 昭和大学スペシャルニーズリハビリテーション科特別普通研究員 口腔リハビリテーション学会 MFT学会 臨床心理カウンセラー						
目的	2年生で行われる歯科臨床各論の授業開始前に口腔領域に発生する疾患の本態を理解する。						
科目概要	歯科診療、歯科疾患の概略と体系を理解し、患者の疾病予防、および疾患からの回復を目指した行動について理解を深める。						
到達目標	①2年生における臨床各論の授業を抵抗なく受講できること。 ②各専門別に行われる各論の授業を有機的に総合して理解できること。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科衛生士のための歯科臨床概論(医歯薬出版)			事前事後学習とその内容	事前に口腔解剖学、特に歯と歯周組織の組織学、発生学を理解しておくこと。 事後は臨床各論を総合的に理解できるよう、復習しておくこと。		
参考図書	なし。						
特記事項	【資料(補助教材)】資料を配布する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	第1部 医療および歯科医療 歯の組織学、歯の発生学	講義	第1部 医療及び歯科医療:医療全体に中での歯科医療の位置と特徴を理解する。 口腔疾患を理解するために正常な歯の組織学、歯の発生学を復習する。
2	第2部 歯科疾患の概要 う蝕の病因論 う蝕の進行と症状の変化	講義	第2部 歯科疾患の概要:歯および口腔領域に発生する疾患について、その本態を理解する。 う蝕の病因論:う蝕の発生機序について理解する。 う蝕の進行と症状の変化:病態の進行に伴う症状の変化を理解する。
3	う蝕の治療 う蝕の予防	講義	う蝕の各進行段階における治療法と、その際の歯科衛生士の介助法について理解する。 う蝕の予防法と実際の効果及びその限界について理解する。特に予防は歯科衛生士が主体的に取り組む課題であるため、深く理解する必要がある。
4	歯周疾患	講義	歯周疾患について1)病因論 2)症状 3)診査・診断 4)治療 5)メンテナンス 6)予防法などを理解する。 歯周疾患については診査から治療の一部、メンテナンス、予防に至るまで、歯科衛生士が主体的に関わる人が多いので、詳しく学習する。
5	歯の欠損 不正咬合 その他の疾患 先天異常	講義	歯の欠損に対する補綴治療の方法を理解する。 不正咬合の種類と矯正治療法を理解する。 その他の疾患 1)先天異常として、歯の異常と口唇裂・口蓋裂について理解する。
6	外傷 炎症性疾患 嚢胞	講義	外傷の原因、症状、治療法について理解する。 急性化膿性上・下顎骨炎の原因菌、感染経路、症状、治療法などを理解する。 嚢胞が口腔領域に多い理由、それらの上皮由来、構造、治療方法などを理解する。
7	腫瘍 口腔粘膜疾患 唾液腺疾患 顎関節疾患、神経疾患	講義	腫瘍の定義。口腔に特有な腫瘍。比較的多発する腫瘍について病態、治療法を理解する。 口腔に多発する粘膜疾患の種類と病態について理解する。 唾液腺疾患の好発部位とその症状について。顎関節疾患 神経疾患はその概要を理解する。
8	定期試験		筆記試験 多岐選択式(国家試験方式に準じて)で行う。

科目名 (英)	歯科予防処置論 I Dentistry Prevention Measures Theory I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	平 早由加/大原 良子
		授業形態	講義・演習		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	木/1.2限 3.4限
講師紹介	平 早由加: 歯科衛生士として臨床経験23年であり実習指導衛生士でもある教員が、歯科衛生士にとって必要な知識・技術を習得できるように講義・演習を行う。また、フリーランスとして活動しており、臨床に加えスタディグループの運営、セミナー講師等もしている。 大原 良子: 歯科機械メーカー、歯科医院に勤務、歯牙及び口腔の疾患の予防に取り組み健康増進に携わってきた教員が、歯科衛生士にとって必要な知識・技術を習得できるように講義・演習を行う。						
目的	歯科衛生士の業務のひとつである「歯科予防処置」に携わるための知識や技術を習得する。						
科目概要	歯科予防処置(歯および口腔の疾患を予防して健康な状態を維持・増進するために行われる専門的な処置)が実践できる。						
到達目標	①歯科予防処置論の定義を説明し、それに必要な基礎知識を習得する。 ②シックル・キュレットスケーラーを机上、ファントムマネキンで適切に操作できるようになる。 ③スケーリング、歯面研磨、歯面清掃に必要なアセスメントのスキルを習得する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	専門用語が出てくるため、予め教科書を読むこと。 授業後は、復習練習することで知識・技術向上ができる。		
参考図書	別途、授業内で紹介。						
特記事項	実習に必要な器具等は事前の指示を確認し、すべて持参すること。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科衛生介入 シックルスケーラー(マネキン実習)	講義	シックルスケーラーを安全に正しく操作することができる。
2	歯科衛生介入 シックルスケーラー(マネキン実習)	演習	シックルスケーラーを安全に正しく操作することができる。
3	歯科衛生介入 シックルスケーラー(マネキン実習)	演習	キュレットスケーラーを安全に正しく操作することができる。
4	歯科衛生介入 キュレットスケーラー(マネキン実習)	講義	キュレットスケーラーを安全に正しく操作することができる。
5	歯科衛生介入 キュレットスケーラー(マネキン実習)	講義	キュレットスケーラーを安全に正しく操作することができる。
6	歯科衛生介入 キュレットスケーラー(マネキン実習)	演習	キュレットスケーラーを安全に正しく操作することができる。
7	歯科衛生介入 キュレットスケーラー(マネキン実習)	演習	キュレットスケーラーを安全に正しく操作することができる。
8	歯科衛生介入 歯面研磨・歯面清掃 (マネキン実習)	演習	歯面研磨・歯面操作の操作を実践することができる。
9	歯科衛生介入 歯面研磨・歯面清掃 (マネキン実習)	演習	歯面研磨・歯面操作の操作を実践することができる。
10	歯科衛生介入 歯面研磨・歯面清掃 (相互実習)	演習	歯面研磨・歯面操作の操作を実践することができる。
11	歯科衛生介入 歯面研磨・歯面清掃 (相互実習)	演習	歯面研磨・歯面操作の操作を実践することができる。
12	歯科衛生介入 手用スケーラー・歯面研磨 (相互実習)	演習	シックルスケーラー・歯面研磨の操作を安全に実践することができる。
13	歯科衛生介入 手用スケーラー・歯面研磨 (相互実習)	演習	シックルスケーラー・歯面研磨の操作を安全に実践することができる。
14	歯科衛生介入 手用スケーラー・歯面研磨 (相互実習)	演習	キュレットスケーラー・歯面研磨の操作を安全に実践することができる。
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科予防処置論Ⅱ		年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	平 早由加/大原 良子
	Dentistry Prevention Measures Theory II	授業形態	講義・演習		有			
学科・コース		歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
	単位		1	曜日/時間			木/1.2限 3.4限	
講師紹介	平 早由加: 歯科衛生士として臨床経験23年であり実習指導衛生士でもある教員が、歯科衛生士にとって必要な知識・技術を習得できるように講義・演習を行う。また、フリーランスとして活動しており、臨床に加えスタディグループの運営、セミナー講師等も行っている。 大原 良子: 歯科機械メーカー、歯科医院に勤務、歯牙及び口腔の疾患の予防に取り組み健康増進に携わってきた教員が、歯科衛生士にとって必要な知識・技術を習得できるように講義・演習を行う。							
目的	歯科衛生士の業務のひとつである「歯科予防処置」に携わるための知識や技術を習得する。							
科目概要	歯科予防処置(歯および口腔の疾患を予防して健康な状態を維持・増進するために行われる専門的な処置)が実践できる。							
到達目標	①歯科予防処置論の定義を説明し、それに必要な基礎知識を習得する。 ②キュレットスケーラーを机上、ファントムマネキンで適切に操作できるようになる。 ③スクレーピング、歯面研磨、歯面清掃に必要なアセスメントのスキルを習得する。							
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート							
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)				事前事後 学習と その内容	専門用語が出てくるため、予め教科書を読むこと。 授業後は、復習練習することで知識・技術向上ができる。		
参考図書	別途、授業内で紹介。							
特記事項	実習に必要な器具等は事前の指示を確認し、すべて持参すること。							

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科衛生介入 キュレットスケーラー(マネキン実習)	講義	キュレットスケーラーを安全に正しく操作することができる。
2	歯科衛生介入 キュレットスケーラー(マネキン実習)	演習	キュレットスケーラーを安全に正しく操作することができる。
3	歯科衛生介入 キュレットスケーラー(マネキン実習)	演習	キュレットスケーラーを安全に正しく操作することができる。
4	歯科衛生介入 キュレットスケーラー(マネキン実習)	演習	キュレットスケーラーを安全に正しく操作することができる。
5	歯科衛生介入 手用・機械スケーラー・歯面研磨 (相互実習)	演習	手用・機械スケーラー・歯面研磨の操作を安全に実践することができる。
6	歯科衛生介入 手用・機械スケーラー・歯面研磨 (相互実習)	演習	手用・機械スケーラー・歯面研磨の操作を安全に実践することができる。
7	歯科衛生介入 手用・機械スケーラー・歯面研磨 (相互実習)	演習	手用・機械スケーラー・歯面研磨の操作を安全に実践することができる。
8	定期試験		実技試験(ルーブリック評価)。

科目名 (英)	歯科保健指導論 I		年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	近松 史子
	Dentistry Health Guidance Theory I	授業形態	講義		有		開講区分	後期
		時間数	30	授業回数	15	曜日/時間		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部		単位			2		
講師紹介	歯科衛生士として幅広い分野での臨床経験を有し、特に訪問診療にて摂食・嚥下指導を中心に高齢者施設や、在宅医療に携わってきた専任教員が教育経験を活かして歯科保健指導論の授業を行う。							
目的	人びとの多様なニーズに対して科学的根拠を持って専門的立場から口腔の健康維持・増進についての助言と支援を行うために必要な能力を養う							
科目概要	歯科保健指導の概要について学び、実践するための基礎知識の習得							
到達目標	歯科保健指導(口腔の健康を維持管理し、患者の口腔に対する保健意識の向上に関わる知識及び技術)を理解する							
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート							
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 (医歯薬出版株式会社)				事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布プリントを再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	特になし。							
特記事項	特になし。							
授 業 計 画								
回数	授業テーマ		授業形態	授業内容				
1	ライフステージに対応した歯科衛生介入		講義	妊娠婦期の口腔健康管理				
2	ライフステージに対応した歯科衛生介入		講義	新生児期～乳児期の口腔の特徴と口腔衛生管理				
3	ライフステージに対応した歯科衛生介入		講義	新生児期～乳児期の口腔機能と食生活指導				
4	ライフステージに対応した歯科衛生介入		講義	幼児期の口腔機能と食生活指導				
5	ライフステージに対応した歯科衛生介入		講義	学齢期の口腔健康管理 口腔機能発達不全症に関する指導				
6	ライフステージに対応した歯科衛生介入		講義	青年期 禁煙指導				
7	ライフステージに対応した歯科衛生介入		講義	成人期の口腔衛生管理と食生活指導				
8	ライフステージに対応した歯科衛生介入		講義	老年期の口腔衛生管理 口腔機能低下症に関する指導 食生活指導				
9	ライフステージに対応した歯科衛生介入		講義	要介護高齢者の口腔衛生管理と食生活指導				
10	ライフステージに対応した歯科衛生介入		講義	障害児の口腔衛生管理と食生活指導 大規模災害被災者				
11	ライフステージに対応した歯科衛生介入		講義	生活習慣の指導				
12	ライフステージに対応した歯科衛生介入		講義	禁煙指導				
13	歯科保健指導まとめ①		実習	歯科衛生士過程の進め方①				
14	歯科保健指導まとめ②		実習	歯科衛生士過程の進め方②				
15	定期試験			筆記試験				

科目名 (英)	歯科診療補助論 I Dental Examination Assistance Theory I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	杉本 雅子
		授業形態	講義・演習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	2			曜日/時間	金/1.2限 3.4限
講師紹介	歯科医院での臨床経験を有した教員が、歯科衛生士の3大業務の一つである歯科診療補助論 I を講義・演習する。現在、フリーランスとしても臨床現場にて歯周病治療の歯科衛生士として従事している。						
目的	歯科診療が安全に行われるための知識と技術を得得する。						
科目概要	治療の流れ、器具機材、薬品について知識・施術を得得し、歯科診療が円滑に行われるよう歯科診療の補助が実践できるよう理解を深める。						
到達目標	歯科診療補助が円滑に行われるように歯科治療の流れを把握し、器具機材、薬品について学習し、技術を得得する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科診療補助論(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	毎回の授業終了時に当日の講義内容に関する小テストを行う。毎回の授業内容についてはあらかじめ自習を行うのが望ましい。加えて、当日の授業内容については、ノート、教科書を見ながら必ず復習すること。		
参考図書	イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 第4版 他						
特記事項	持参物:グローブ・ゴーグル・マスク						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	印象採得とは 嘔吐反射時の対応について	講義	印象採得の目的とは 印象用トレーの種類と選択について 適切な嘔吐反射時の対応について
2	アルジネート印象材の準備・練和実習	講義 演習	アルジネート印象材の適切な取り扱いと準備について
3	アルジネート印象材の練和実習	講義 演習	アルジネート印象材の適切な取り扱いについて 適切な印象採得とは アルジネート印象材を用いた顎模型の印象採得
4	アルジネート印象材を用いた顎模型の印象採得実習<片顎>	講義 演習	アルジネート印象材の適切な取り扱いについて アルジネート印象材を用いた顎模型の印象採得
5	アルジネート印象材を用いた顎模型の印象採得実習<全顎>	講義 演習	アルジネート印象材の適切な取り扱いについて アルジネート印象材を用いた顎模型の印象採得
6	アルジネート印象材を用いた顎模型の印象採得実習<全顎>	講義 演習	アルジネート印象材の適切な取り扱いについて アルジネート印象材を用いた顎模型の印象採得
7	実技試験に向けての復習 アルジネート印象材を用いた顎模型の印象採得実習<全顎>	講義	アルジネート印象材の適切な取り扱いについて アルジネート印象材を用いた顎模型の印象採得
8	実技チェック	演習	顎模型にてアルジネート印象採得(全顎)を各自指定時間内に実施する。 (身だしなみも含む)
9	寒天印象材とアルジネート印象材の連合印象について	講義	アルジネート印象材の適切な取り扱いについて 寒天印象材とアルジネート印象材を用いた連合印象採得について
10	寒天印象材とアルジネート印象材の連合印象について	講義 演習	歯科用石膏とは アルジネートを用いた印象採得と、研究用模型の作成について
11	歯科用石膏について	講義	歯科用石膏とは アルジネートを用いた印象採得と、研究用模型の作成について
12	歯科用石膏練和・注入<片顎>	講義 演習	アルジネートを用いた印象採得と、歯科用石膏を用いた研究用模型の作成
13	歯科用石膏を用いた研究用模型の作成<全顎>	講義 演習	アルジネートを用いた印象採得と、歯科用石膏を用いた研究用模型の作成
14	歯科用石膏を用いた研究用模型の作成<全顎> 歯科診療補助論 I まとめ	講義 演習	アルジネートを用いた印象採得と、歯科用石膏を用いた研究用模型の作成 歯科診療補助論 I の要点をまとめることができる。
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科診療補助論Ⅱ Dental Examination Assistance Theory II	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	杉本 雅子
		授業形態	講義・演習		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	金/1.2限 3.4限
講師紹介	歯科医院での臨床経験を有した教員が、歯科衛生士の3大業務の一つである歯科診療補助論Ⅱを講義・演習する。現在、フリーランスとしても臨床現場にて歯周病治療の歯科衛生士として従事している。						
目的	歯科診療が安全に行われるための知識と技術を習得する。						
科目概要	治療の流れ、器具機材、薬品について知識・施術を習得し、歯科診療が円滑に行われるよう歯科診療の補助が実践できるよう理解を深める。						
到達目標	歯科診療補助が円滑に行われるように歯科治療の流れを把握し、器具器材、薬品について学習し、技術を習得する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科診療補助論(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	毎回の授業終了時に当日の講義内容に関する小テストを行う。毎回の授業内容についてはあらかじめ自習を行うのが望ましい。加えて、当日の授業内容については、ノート、教科書を見ながら必ず復習すること。		
参考図書	イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 第4版 他						
特記事項	持参物:グローブ・ゴーグル・マスク						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	ゴム質印象材とその他の印象材について	講義	ゴム質印象材について モデリングコンパウンド印象材について 酸化亜鉛ユージノール印象材について
2	ゴム質印象材とその他の印象材について	講義 演習	ゴム質印象材について モデリングコンパウンド印象材について 酸化亜鉛ユージノール印象材について
3	口腔内写真について	講義 演習	口腔内写真撮影の目的とは 撮影時の姿勢、患者・術者のポジションについて 正面観、側面観の口腔内写真撮影
4	口腔内写真について	講義 演習	口腔内写真撮影の目的とは 撮影時の姿勢、患者・術者のポジションについて 正面観、側面観の口腔内写真撮影
5	合着材の取り扱いについて	講義 演習	基本の練和方法について 合着材としてのカルボキシレートセメントについて
6	合着材の取り扱いについて	講義 演習	リン酸亜鉛セメントの適切な取り扱いとは グラスアイオノマーセメントの適切な取り扱い
7	実技試験に向けての復習 合着材の取り扱い(復習)	講義 演習	基本の練和方法について 各合着材の取り扱いと練和
8	実技チェック	演習	各合着材を各自指定時間内に練和する(身だしなみも含む)
9	成形歯冠修復について	講義	成形歯冠修復について 成形歯冠修復の種類
10	成形歯冠修復について	講義 演習	光重合型コンポジットレジンとは 光重合型コンポジットレジン修復について・修復の手順について
11	隔壁法について	講義 演習	隔壁法とは 顎模型を用いた隔壁法の実習
12	歯間分離法について	講義 演習	歯間分離法とは 顎模型を用いた歯間分離法の実習
13	歯肉排除について	講義 演習	歯肉排除法とは 顎模型を用いた歯肉排除法の実習
14	歯科診療補助論Ⅱまとめ	講義 演習	歯科診療補助論Ⅱの要点をまとめることができる。
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	キャリアデザイン Career Education	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	橋 茉莉子/白土 麻里奈
		授業形態	講義		無		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	1			曜日/時間	木/1.2限 他
講師紹介	白土麻里奈: 歯科衛生士としての臨床経験を有し、介護事業所、介護福祉施設で口腔衛生管理、口腔機能管理、摂食・嚥下機能に関する講習会を行う。 橋 茉莉子: 新東京歯科衛生士学校・新東京歯科技工士学校 教務所属 専門学校での教務としての経験を活かし、歯科衛生士としてのキャリアデザインを考えるサポートを行う。						
目的	歯科衛生士として必要な基礎力と自ら行動できる力を身につけ、自身のキャリアをデザインできるようになる。						
科目概要	キャリア選択に必要な考え方や行動指針の理解を深める。						
到達目標	① 歯科衛生士の業務と歯科衛生士の歯科医療における役割について理解できる。 ② 将来像を明確にし、学ぶ姿勢を身につける。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	入学前から始める！ 歯科衛生の基礎知識(みつわ印刷)			事前事後 学習と その内容	積極的に授業に参加する。		
参考図書	なし。						
特記事項	【プリント(補助教材)】 講義中に配布。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	キャリアデザインについて Jメッセージ ～学校生活に向けての決意～	講義	授業スケジュール 夢を明確にし、これからスタートする学校生活について決意を固め、歯科衛生士への第1歩とする。
2	1年後の目標を立てる①	講義	担当上級生を通じて、1年後の自分はどのように成長しているべきか考察する。
3	1年後の目標を立てる②	講義	担当上級生を通じて、1年後の自分はどのように成長しているべきか考察する。
4	身だしなみについて	講義	医療人としての身だしなみを理解し実行できる。(白衣着用) 外部実習に向けてリクルートスタイルを理解する。
5	企業見学 ～株式会社GC～	講義	企業で勤務する歯科衛生士の業務内容、役割を知る。 最新機器に触れ、知識を身につける。
6	企業見学 ～株式会社GC～	講義	企業で勤務する歯科衛生士の業務内容を知る。 最新機器に触れ、知識を身につける。
7	VRを使用して解剖学を知る	講義	～解剖学を理解する～ 苦手意識を持ちがちな解剖学の授業でVRを使用し、身体の構造を理解することで、定期試験に向けての知識を身につける。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	病理学・口腔病理学 基礎 Basic Pathology・Oral Pathology	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	奥田 光江
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	月/1.2限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有した講師が、歯科衛生士に必要な病理学・口腔病理学 基礎を講義する。 Hikari矯正歯科クリニック院長						
目的	病理学の基本は病因になるが、臓器や組織における病変の概念を理解する。 口腔というひとつの環境における疾患の原因、硬組織である歯、顎骨における病変を理解する。						
科目概要	病気についての基本事項を理解し、さらに口腔領域の様々な組織に発生した病変について習得し、歯科臨床に応用できるようになる。						
到達目標	病理学を通じ人体に生じる病気のあり方を理解し、教科書の到達目標を理解出来るようにする。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	病理学・口腔病理学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	授業前に教科書を予習しておく事で、講義内容をスムーズに理解する事ができる。 講義後は、配布資料と教科書を併せて復習する事で理解が深まる。		
参考図書	なし。						
特記事項	【資料(補助教材)】講義ごとに資料を配布する。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	第1章および第2章 病理学序論・遺伝性疾患と奇形	講義	細胞と組織、病因論(内因・外因) 病理学の入門であるが、まず正常な細胞、組織を理解する。 病因論では病気の原因について理解する。
2	第3章 循環障害	講義	身体における循環系は体内の水分維持を行い生命にもっとも大切な役割を担っている。 歯科衛生士として最低限強いておくべき循環系の機能、病態を理解する。
3	第4章 代謝障害 と退行性病変	講義	退行性病変であり身体の細胞や組織に生じる障害について学ぶ。 代謝障害には変性、萎縮、壊死がありこれらについての成因、性状を理解する。
4	第5章 増殖と修復	講義	進行性病変であり組織が損傷を受けたときの状態から治癒にいたるまでの病理学的経過を理解する。
5	第6章-1 炎症	講義	炎症性疾患は身体の各部位で発症するが、組織が損傷された場合や免疫系の損傷による場合もある。 口腔医療に携わる歯科衛生士としては、特に歯周炎はこの病態にもっとも関与しているために、理解が必要である。
6	第6章-2 免疫とアレルギー	講義	病因の本質といわれる免疫学を理解する。 疾病が起こりやすい生体の整理について理解する。
7	第7章 腫瘍・呼吸器系疾患 および病理学の総括	講義	腫瘍とは、身体の正常細胞がその正常を変化させ増殖したもので、その種類に生命に危機をもたらす病態である。 腫瘍の種類、性状について理解する。 更に、病理学の重要ポイントを復習し理解する。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	微生物学・口腔微生物学 基礎 Basic Microbiology・Oral Pathology	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	桑田 啓貴
		授業形態	講義		有	開講区分	
		時間数	15	授業回数	8		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	1			曜日/時間	火/3.4限
講師紹介	歯科医師であり、臨床経験を有した講師が大学教員としての経験を踏まえて歯科衛生士に必要な微生物学・口腔微生物学 基礎の講義をする。 【所属】昭和大学歯学部口腔微生物学講座 【専門分野】微生物学、免疫学 【所属学会】日本細菌学会、日本免疫学会、歯科基礎医学会						
目的	安全で効果的な歯科衛生士業務を行うために、微生物の感染と宿主の抵抗性(免疫)に関する基礎知識を学び、理解する。 科目概要: 日常生活や歯科臨床に関わりの深い微生物の種類、形態、性質について、スライドとプリントを用いた講義を行う。 スライドやプリントでは写真やイラストを多用し、視覚的な理解を深める。						
科目概要	微生物を分類し、それぞれの性質と特徴を概説できる。 主な病原微生物の性質と、それらを原因とする感染症の特徴を説明できる。						
到達目標	微生物を分類し、それぞれの性質と特徴を概説できる。 主な病原微生物の性質と、それらを原因とする感染症の特徴を説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	微生物学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	予習の必要はない。毎回の授業の終わりに小テストを行う。 授業の後の小テストを解く時に、教科書の該当箇所を読み、配布資料やノートを参考にして講義の復習を30分程度行くと正確な理解につながる。		
参考図書	必要に応じて授業内で紹介する。						
特記事項	なし。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	感染の成り立ちと発病について学び理解する。微生物の種類を覚える。感染症の種類を覚える。免疫の概要を理解する。	講義	なぜ皆さんがこの学問を学ぶ必要があるのか理解しましょう。 * 普段何気なく使っている「感染」、「感染症」という言葉、正確に理解できていますか。 * みなさんが持っている病気と闘う力「免疫力」ご存知ですか。 * 感染と免疫の関係を理解しましょう。
2	微生物の分類について理解する。細菌の一般的な構造を理解する。	講義	* 原核生物と真核生物という分類は、非常に重要な概念です。 * ウィルスってとっても微妙な存在です。その理由を理解しましょう。 * グラム染色はとっても重要です。頑張って染色のしくみを理解しましょう。 * 細菌の構造は少し複雑ですが、グラム染色との関係を理解しつつ覚えましょう。
3	細菌の代謝と増殖様式を理解する。細菌の病原因子を理解し覚える。	講義	* 細菌と酸素の関係は重要です。頑張って理解しましょう。 * 細菌はどのようにエネルギーを獲得して、どのように増えるのでしょうか。 * 細菌はどのようにしてヒトに病気を起こすのでしょうか。
4	病原微生物各論1. グラム陽性球菌・グラム陽性桿菌・グラム陰性球菌とその感染症について学び理解する。	講義	4種類に分類した細菌のうち、まずは以下の3種類について理解しましょう。 * グラム陽性球菌: 黄色ブドウ球菌、レンサ球菌(A群レンサ球菌、口腔レンサ球菌) * グラム陽性桿菌: 芽胞形成細菌(クロストリジウム属・バシラス属)、結核菌 * グラム陰性球菌: 髄膜炎菌と淋菌
5	病原微生物各論2. グラム陰性桿菌・マイコプラズマ・スピロヘータ・リケッチア・クラミジアとその感染症について学び理解する。	講義	グラム陰性桿菌: 腸内細菌科、歯周病関連細菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの特徴を理解しましょう。
6	病原微生物各論3. ウィルスの一般的な構造を理解する。ヒトに病原性を示すウイルスとその感染症について学び理解する。	講義	ウィルスは他の微生物とは大きく異なる特徴を持っています。その特徴を理解しましょう。 * ウィルスの構造は独特です。「カプシド」、「エンベロープ」とは何でしょうか。 * 「吸着」、「脱殻」、「暗黒期」などウィルスの増殖の特徴を理解しましょう。 * 口腔内に症状が出るウイルス感染症にはどのようなものがあるでしょうか。
7	病原微生物各論4. レトロウイルス、肝炎ウイルスについて学び理解する。真菌、原虫の性状とその感染症について理解する。	講義	* HIVはどのようにAIDSを引き起こすのでしょうか。どこが他のウイルスと違うのでしょうか。 * 肝炎ウイルスにはどのようなものがあるのでしょうか。それぞれの特徴は何でしょうか。 * 歯科で扱う真菌症では、口腔カンジダ症が重要です。どのような症状が現れるのでしょうか。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	口腔衛生学 基礎 Basic Oral Hygiene Study	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	一宮 頼子
		授業形態	講義		有	開講区分	
		時間数	15	授業回数	8		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	1			曜日/時間	火/1.2限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有した講師が大学教員でもある教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 日本歯科大学 客員教授・口腔衛生学・口腔衛生学会 専門医、代議員						
目的	歯科疾患の全身的要因、生活習慣、社会的要因および環境要因リスクを知り、リスクを取り除くことにより、口腔の健康と機能の維持増進をはかり人々の健康状態と生活の質を向上させることのできる歯科衛生士として社会貢献できるよう知識を習得する。						
科目概要	口腔の疾患の予防や、健康増進のための知識を習得し、歯科臨床に応用できるよう理解を深める。						
到達目標	①口腔衛生学の定義を述べることができる。 ②基礎系歯科医学である歯・口腔の構造、成長、発育、機能を説明できる。 ③歯・口腔の付着物・沈着物の特徴を列挙することができる。 ④口腔清掃法、不適切な方法による為害作用、用いる用具、歯磨剤、洗口剤の特性を説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	保健生態学(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。事後学習として、配布資料を再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	配布資料						
特記事項	なし。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯・口腔の健康と予防	講義	口腔衛生の学び方を身につける。 口腔の健康の定義を述べるができる。 「口腔の健康と予防」の方法を分類することができる。 「口腔の健康と予防」に関わる健康づくりを説明することができる。
2	歯・口腔の構造	講義	口腔衛生の学び方を身につける。 口腔の健康の定義を述べることができる。 「口腔の健康と予防」の方法を分類することができる。 「口腔の健康と予防」に関わる健康づくりを説明することができる。
3	歯・口腔の発生と成長・発育	講義	歯と口腔の発生を類別することができる。 重要な歯の形成、萌出時期を具体的に述べるができる。 カルシウム代謝に関与するホルモンの働きを説明することができる。 歯・口腔の形成異常について列挙することができる。
4	歯・口腔の機能	講義	咀嚼の意義を説明することができる。 摂食・嚥下運動の流れを列記することができる。 調音部位と調音方法によって日本語語音を分類することができる。 歯科疾患と全身の健康を関連付けて説明することができる。
5	歯・口腔の付着物・沈着物	講義	ペリクル、プラーク、歯石の組成と形成機序を対比して、具体的に述べることができる。 舌苔、外来性色素沈着物について説明することができる。
6	口腔清掃	講義	口腔清掃の意義を述べることができる。口腔清掃法を分類することができる。ブラッシング法を対比することができる。 ブラッシング、歯間部清掃などに用いる用具の特性を列挙することができる。
7	不適切な口腔清掃、歯磨剤と洗口剤	講義	不適切な口腔清掃による為害作用を具体的に述べることができる。 歯磨剤、洗口剤の組成を列挙することができる。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科予防処置論 基礎 I Basic Dentistry Prevention Measures Theory I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	平 早由加/大原 良子
		授業形態	講義・演習		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	木/1.2限 3.4限
講師紹介	平 早由加: 歯科衛生士として臨床経験23年であり実習指導衛生士でもある教員が、歯科衛生士にとって必要な知識・技術を習得できるように講義・演習を行う。また、フリーランスとして活動しており、臨床に加えスタディグループの運営、セミナー講師等もしている。 大原 良子: 歯科機械メーカー、歯科医院に勤務、歯牙及び口腔の疾患の予防に取り組み健康増進に携わってきた教員が、歯科衛生士にとって必要な知識・技術を習得できるように講義・演習を行う。						
目的	歯科衛生士の業務のひとつである「歯科予防処置」に携わるための知識や技術を習得する。						
科目概要	歯科予防処置(歯および口腔の疾患を予防して健康な状態を維持・増進するために行われる専門的な処置)が実践できる。						
到達目標	①歯科予防処置論の定義を説明し、それに必要な基礎知識を習得する。 ②シックルスケーラーを机上、ファントムマネキンで適切に操作できるようになる。 ③スケーリングに必要なアセスメントのスキルを習得する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	専門用語が出てくるため、予め教科書を読むこと。 授業後は、復習練習することで知識・技術向上ができる。		
参考図書	別途、授業内で紹介。						
特記事項	実習に必要な器具等は事前の指示を確認し、すべて持参すること。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	総論	講義	オリエンテーション 定義・法的位置付け・予防の概念・歯科予防処置論の内容を理解する。
2	実習時の身だしなみ①	演習	どんな歯科衛生士に診てもらいたいのか考え、グループでまとめ発表することができる。 学内実習時の身だしなみを理解する。
3	実習時の身だしなみ②	演習	実習時の身だしなみチェックを受け、正しい身だしなみを実施できる。(白衣記念日) 次回にむけ、石膏練習棒のフレームを作成することができる。
4	口腔の基礎知識	講義	口腔の構成・歯周組織の構成・歯冠・歯根の形態を理解できる。
5	口腔の付着物・沈着物 う蝕	講義	プラーク・歯石の特徴、う蝕の分類および原因を理解することができる。
6	石膏の取り扱い	演習	石膏の取り扱いを理解し、2人1組で訓練用石膏棒を作成することができる。
7	ファントムマネキン 顎模型の取り扱い	演習	(株)ニッシン ファントムマネキン・顎模型・頬粘膜の取り扱いを理解できる。
8	歯周病	講義	歯周疾患の分類および原因、歯列・FDIを理解できる。
9	歯科衛生士過程	講義	情報収集の目的や得られる情報、口腔内の観察項目とポイントを理解する。
10	歯科衛生介入 プロービング・エキスポローリング	演習	歯科衛生介入関する検査方法 訓練用石膏棒・グミを用い、プロービング・エキスポローリングの正しい操作を理解する。
11	歯科衛生介入 超音波スケーラー	講義	超音波スケーラーの原理、操作方法、注意事項、メンテナンスを理解する。
12	歯科衛生介入 超音波スケーラー(マネキン実習)	演習	超音波スケーラーの操作方法を理解できる。 鶏卵を用い、安全な操作練習を行うことできる。
13	歯科衛生介入 超音波スケーラー(マネキン実習)	演習	マネキンを用い、超音波スケーラーの正しい操作を実践することができる。 上顎前歯部
14	歯科衛生介入 超音波スケーラー(マネキン実習)	演習	マネキンを用い、超音波スケーラーの正しい操作を実践することができる。 下顎前歯部
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科予防処置論 基礎Ⅱ Basic Dentistry Prevention Measures TheoryⅡ	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	平 早由加/大原 良子
		授業形態	講義・演習		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	木/1.2限 3.4限
講師紹介	平 早由加:歯科衛生士として臨床経験23年であり実習指導衛生士でもある教員が、歯科衛生士にとって必要な知識・技術を習得できるように講義・演習を行う。また、フリーランスとして活動しており、臨床に加えスタディグループの運営、セミナー講師等も行っている。 大原 良子:歯科機械メーカー、歯科医院に勤務、歯牙及び口腔の疾患の予防に取り組み健康増進に携わってきた教員が、歯科衛生士にとって必要な知識・技術を習得できるように講義・演習を行う。						
目的	歯科衛生士の業務のひとつである「歯科予防処置」に携わるための知識や技術を習得する。						
科目概要	歯科予防処置(歯および口腔の疾患を予防して健康な状態を維持・増進するために行われる専門的な処置)が実践できる。						
到達目標	①歯科予防処置論の定義を説明し、それに必要な基礎知識を習得する。 ②シックルスケーラーを机上、ファントムマネキンで適切に操作できるようになる。 ③スケーリング、歯面研磨、歯面清掃に必要なアセスメントのスキルを習得する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	専門用語が出てくるため、予め教科書を読むこと。 授業後は、復習練習することで知識・技術向上ができる。		
参考図書	別途、授業内で紹介。						
特記事項	実習に必要な器具等は事前の指示を確認し、すべて持参すること。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科衛生介入 手用スケーラー	講義	手用スケーラーの種類と特徴を理解できる。
2	歯科衛生介入 シックルスケーラー(マネキン実習)	演習	シックルスケーラーを安全に正しく操作することができる。
3	歯科衛生介入 シックルスケーラー(マネキン実習)	演習	シックルスケーラーを安全に正しく操作することができる。
4	歯科衛生介入 シックルスケーラー(マネキン実習)	演習	シックルスケーラーを安全に正しく操作することができる。
5	歯科衛生介入 シックルスケーラー(マネキン実習)	演習	シックルスケーラーを安全に正しく操作することができる。
6	歯科衛生介入のための予防処置 シックルスケーラー(マネキン実習)	演習	シックルスケーラーを安全に正しく操作することができる。
7	歯科衛生介入のための予防処置 シックルスケーラー(マネキン実習)	演習	シックルスケーラーを安全に正しく操作することができる。
8	歯科衛生介入 プロービング・エキスポローリング (マネキン実習)	演習	プロービング・エキスポローリングの操作を実践することができる。 診査表に正しく記入することができる。
9	歯科衛生介入 プロービング・エキスポローリング(相互実習)	演習	プロービング・エキスポローリングの操作を実践することができる。 診査表に正しく記入することができる。
10	歯科衛生介入 プロービング・エキスポローリング(相互実習)	演習	プロービング・エキスポローリングの操作を実践することができる。 診査表に正しく記入することができる。
11	歯科衛生介入 プロービング・エキスポローリング(相互実習)	演習	プロービング・エキスポローリングの操作を実践することができる。 診査表に正しく記入することができる。
12	歯科衛生介入 プロービング・エキスポローリング(相互実習)	演習	プロービング・エキスポローリングの操作を実践することができる。 診査表に正しく記入することができる。
13	歯面研磨・歯面清掃	講義	目的、種類、歯面研磨剤 使用器材、操作方法、注意を要する症例を理解できる。
14	歯面研磨・歯面清掃	演習	PTCとPMTCの使用器具、操作手順を理解できる。 10円玉を用い、歯面研磨・歯面清掃の操作を実践することができる。
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科保健指導論 基礎		年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	相川 奈美
	Basic Dentistry Health Guidance Theory	授業形態	講義		有		開講区分	前期
		時間数	30	授業回数	15	曜日/時間		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部		単位			2		
講師紹介	<p>歯科衛生士としての臨床経験と有し、地域住民の健康増進を目的に歯科保健指導を行い貢献してきた。 歯牙及び口腔の疾患の予防に取り組み歯科衛生士のスペシャリストを目指すために、歯科衛生士としての目的・重要性の確認と、専門的な知識と技術の基礎を習得する授業を行う。</p>							
目的	人びとの多様なニーズに対して科学的根拠を持って専門的立場から口腔の健康維持・増進についての助言と支援を行うために必要な能力を養う							
科目概要	歯科保健指導の概要について学び、実践するための基礎知識の習得							
到達目標	歯科保健指導(口腔の健康を維持管理し、患者の口腔に対する保健意識の向上に関わる知識及び技術)を理解する							
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>							
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 (医歯薬出版株式会社)				事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布プリントを再読すること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	特になし。							
特記事項	特になし。							
授 業 計 画								
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容					
1	歯科保健指導論の概要 健康の概念	講義	歯科保健指導の意義と特性 歯科衛生工法における歯科保健指導の位置づけ					
2	食生活指導のための基礎知識①	講義	国民の健康と栄養の現状					
3	食生活指導のための基礎知識②	講義	食品とう蝕の関連性					
4	食生活指導のための基礎知識③	講義	食品と歯科疾患の関連性					
5	保健行動支援のための基礎知識	講義	歯科保健指導に関わる理論と行動変容					
6	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理①	講義	情報収集 医療面接					
7	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理②	講義	全身の健康状態の把握 認知機能の把握 生活環境の把握 生活習慣の把握 口腔の機能的問題の把握					
8	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理③	講義	分析のためのデータ(口腔衛生状態の指数)					
9	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理④	講義	分析のためのデータ(歯周疾患の指数)					
10	口腔衛生管理①	講義	ブラッシング(歯ブラシ・ブラッシングの方法)					
11	口腔衛生管理②	講義	その他の清掃法(フロッシング・歯間ブラシ・タフトブラシ)					
12	口腔衛生管理③	講義	歯磨剤・洗口剤					
13	口腔衛生管理④	実習	ブラッシング実習					
14	口腔の基礎知識	講義	口腔機能 摂食嚥下のしくみ					
15	定期試験		筆記試験					

科目名 (英)	歯科診療補助論 基礎 I Basic Dental Examination Assistance Theory I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	杉本 雅子
		授業形態	講義・演習		有		
		時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	2			曜日/時間	金/1.2限 3.4限
講師紹介	歯科医院での臨床経験を有した教員が、歯科衛生士の3大業務の一つである歯科診療補助論基礎 I を講義・演習する。現在、フリーランスとしても臨床現場にて歯周病治療の歯科衛生士として従事している。						
目的	歯科診療が安全に行われるための知識と技術を習得する。						
科目概要	治療の流れ、器具機材、薬品について知識・施術を習得し、歯科診療が円滑に行われるよう歯科診療の補助が実践できるよう理解を深める。						
到達目標	歯科診療補助が円滑に行われるように歯科治療の流れを把握し、器具器材、薬品について学習し、技術を習得する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科診療補助論(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	毎回の授業終了時に当日の講義内容に関する小テストを行う。毎回の授業内容についてはあらかじめ自習を行うのが望ましい。加えて、当日の授業内容については、ノート、教科書を見ながら必ず復習すること。		
参考図書	イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 他						
特記事項	持参物:グローブ・ゴーグル・マスク						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科診療の概念と業務内容について 診療の補助を行うその他の医療業種について	講義	歯科診療補助の概念 歯科診療補助の業務内容と法的解釈 診療の補助を行う医療職種とその業務について
2	歯科診療で使用する基本的な器具について	講義	歯科医療で使用する基本的な器具について 歯科診療で使用する基本的な器具の適切な把持法について
3	医療安全について スタンダードプレコーションとは	講義	医療安全の概念とその対策 歯科医療における感染症の概念と対策 スタンダードプレコーションとは
4	滅菌と消毒について 医療廃棄物の取り扱いについて	講義	滅菌と消毒の定義 滅菌の方法 滅菌物の取り扱いとは 各消毒剤の特徴 ハイリスク患者の器材の取り扱いについて 診療室の廃棄物とその分別について
5	手指衛生と个人防护について	講義	手指衛生について 个人防护具の装着 手指消毒やグローブの装着・脱着
6	手指衛生と个人防护について	講義 演習	手指衛生について 个人防护具の装着 手指消毒やグローブの装着・脱着
7	実技試験に向けての復習 手指衛生と个人防护について(復習)	講義 演習	手指衛生について 个人防护具の装着 手指消毒やグローブの装着・脱着
8	実技チェック	演習	適切な个人防护を実施する。
9	実習時の身だしなみとルールについて 衛生材料の取り扱い	講義 演習	医療人としての適切な身だしなみとは 実習室使用時のルールについて 歯科衛生材料について列挙できる。洗浄用綿球、塗布用綿球、綿栓を作製できる。
10	衛生材料の取り扱い	講義 演習	歯科衛生材料について列挙できる。 洗浄用綿球、塗布用綿球、綿栓を作製できる。
11	歯科診療室について 患者対応と多職種連携について	講義	歯科診療室の適切な環境整備について 薬品、歯科材料の管理について 多職種連携について 歯科診療所における患者対応について 特に配慮が必要な患者対応とは
12	歯科用チェアユニットの名称 準備・片付け・清拭方法使用方法について	講義 演習	準備から片付けまでの流れを理解し、実習におけるローテーションについて 歯科用チェアユニット各部の名称と使用時の注意点について
13	歯科診療における共同動作と基本的な歯科 診療の補助について	講義 演習	共同動作の概念とは 術者、補助者、患者の適切なポジションについて 歯科診療時の適切なライティングテクニックについて
14	フォーハンデッドデンティストリーについて 歯科診療補助論 基礎 I まとめ	講義 演習	器具の受け渡しについて 歯科診療補助論 基礎 I の要点をまとめることができる。
15	定期試験	試験	筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科診療補助論 基礎Ⅱ Basic Dental Examination Assistance Theory II	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	杉本 雅子
		授業形態	講義・演習		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	金/1.2限 3.4限
講師紹介	歯科医院での臨床経験を有した教員が、歯科衛生士の3大業務の一つである歯科診療補助論基礎Ⅱを講義・演習する。現在、フリーランスとしても臨床現場にて歯周病治療の歯科衛生士として従事している。						
目的	歯科診療が安全に行われるための知識と技術を習得する。						
科目概要	治療の流れ、器具機材、薬品について知識・施術を習得し、歯科診療が円滑に行われるよう歯科診療の補助が実践できるよう理解を深める。						
到達目標	歯科診療補助が円滑に行われるように歯科治療の流れを把握し、器具器材、薬品について学習し、技術を習得する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	歯科診療補助論(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	毎回の授業終了時に当日の講義内容に関する小テストを行う。毎回の授業内容についてはあらかじめ自習を行うのが望ましい。加えて、当日の授業内容については、ノート、教科書を見ながら必ず復習すること。		
参考図書	イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 第4版 他						
特記事項	持参物:グローブ・ゴーグル・マスク						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	患者情報について	講義	受付業務・書類作成と情報管理を理解できる。
2	補綴物の種類と構造について 口腔内の観察とカルテ記入について	講義	各種、補綴物の種類と構造について理解できる。 口腔内の観察と、記録・歯式を記入することができる。
3	ラバーダム防湿について①<講義>	講義	ラバーダム防湿の目的を列挙できる。 ラバーダム防湿に使用する器具の用途を列挙できる。
4	ラバーダム防湿について②<1歯露出法>	講義 演習	顎模型を用いたラバーダム防湿を適切に実施できる。
5	ラバーダム防湿について③<2歯露出法>	講義 演習	顎模型を用いたラバーダム防湿を適切に実施できる。
6	ラバーダム防湿について④ <多数歯露出法>	講義 演習	顎模型を用いたラバーダム防湿を適切に実施できる。
7	実技試験に向けての復習 ラバーダム防湿<1歯露出法>(復習)	講義 演習	顎模型を用いたラバーダム防湿を適切に実施できる。
8	実技チェック	演習	顎模型にラバーダム防湿<1歯露出法>を各自指定時間内に実施する。 (身だしなみも含む)
9	仮封材とは	講義	水硬性仮封材の適切な取り扱い 仮封用軟質レジンの適切な取り扱い
10	仮封材とは	講義 演習	テンポラリーストップングの適切な取り扱い 酸化亜鉛ユーージノールセメントの適切な取り扱いとは
11	バキュームテクニック・スリーウェイシリンジの適切な使い方について①	講義	バキュームテクニックの際の禁忌部位について、列挙することができる。 スリーウェイシリンジの使い方について、列挙することができる。
12	バキュームテクニック・スリーウェイシリンジの適切な使い方について②	講義 演習	バキュームテクニックを実施できる。 スリーウェイシリンジテクニックを実施できる。
13	バキュームテクニック・スリーウェイシリンジの適切な使い方について③	講義 演習	バキュームテクニックを実施できる。 スリーウェイシリンジテクニックを実施できる。
14	歯科診療補助論 基礎Ⅱまとめ	講義 演習	歯科診療補助論 基礎Ⅱの要点をまとめることができる。
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名	歯科材料学	年次	1	必修科目	実務経験	科目責任者	片岡 有
		授業形態	講義		有		
(英)	Dental Material Science	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	1			曜日/時間	月/1.2限
講師紹介	歯科医師として大学附属病院にて臨床経験を有し、大学教員でもある教育経験を活かし、歯科衛生士に必要な歯科材料学を講義する。 【所属】昭和大学歯学部歯科保存学講座歯科理工学部門・講師【専門分野】歯科保存学・歯科理工学・生体材料学 【所属学会】日本歯科理工学会・日本口腔インプラント学会・日本デジタル歯科学会・他【研究】チタン・口腔インプラント・骨移植材・CAD/CAM 【執筆】スタンダード歯科理工学第6版(分担執筆)・歯科医療の質を支えるマテリアルのOSARAI&UPDATE(分担執筆)						
目的	歯科衛生士として必要な歯科材料に関する専門的知識を習得する。						
科目概要	歯科衛生士業務に欠かせない歯科材料の基礎を学ぶことで、材料の特徴と使用法を理解し、材料の取り扱いおよび臨床科目である歯科保存学や歯科補綴学につながる知識を理解する。						
到達目標	①歯科材料②歯科材料の規格③金属系材料、セラミックス系材料、レジン系材料の特徴④歯科材料の評価法⑤印象採得から模型製作までの過程⑥印象材の分類と⑦模型材の分類と特徴⑧石膏の種類・硬化機構と硬化促進・硬化遅延⑨合着と接着の意義⑩合着・接着材の特徴と取り扱いを説明できる。⑪成形修復材料⑫歯科用レジン(義歯床用レジン・コンポジットレジン)⑬一般的な歯科臨床の流れ⑭仮封材の分類⑮デジタルデンティストリーの流れ(CAD/CAM、口腔内スキャナー)⑯口腔インプラントの構造⑰歯科医療で利用される新材料(チタン・ジルコニア)を理解し説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 第4版(永末書店)			事前事後学習とその内容	【事前学習】講義内容を確認し、該当分野の教科書を一読しておくこと。その際に知らない用語および興味のある用語をチェックしておくこと。講義を理解しやすい。(特に歯科臨床経験のない学生は必須。) 【事後学習】講義終了時に10分程度の小テストを行う。その際の小テストと配布資料を参考に事後学習とすること。		
参考図書	歯科医療の質を支えるマテリアルのOSARAI&UPDATE						
特記事項	小テストの際にネットワーク(WiFi)を活用するのでスマホ等持参すること。						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科材料の基礎知識 【教科書】p.6～p.23 【該当する到達目標】①、②、③、④	講義	歯科材料を生活に密着した材料と比較しながら説明する。材料を金属系材料、セラミック系材料、レジン系材料の3つに分類し、それぞれの物性や評価法を示しながら解説する。医療で用いる材料の規格(薬機法、ISO、JIS)についてそれぞれの関係を説明する。
2	仮封材 【教科書】p.77～p.84 【該当する到達目標】⑬、⑭	講義	う蝕の分類(C0～C4)を基本に一般的な歯科診療の流れを説明する。その中で利用される仮封材の特徴と目的について解説する。教科書p.77図1、p.78表1を理解できるように説明する。
3	印象材 【教科書】p.26～p.43 【該当する到達目標】⑤、⑥	講義	歯科臨床で印象採得から模型製作までの流れと模型に意義について考える。印象材の分類と特徴を説明する。アルジネート印象材、寒天印象材およびシリコン印象材については詳細に解説を行う。
4	模型用材料 【教科書】p.44～p.50 【該当する到達目標】⑦、⑧	講義	前回の講義で扱った印象材に続く内容である。模型製作に関わる材料として石膏とレジンがあることを説明する。石膏は模型材としてももっとも扱われている材料であり、硬化機構、種類、特徴について解説する。さらに歯科衛生士として石膏粉末の保管法も説明する。
5	合着・接着材 【教科書】p.51～p.62 【該当する到達目標】⑨、⑩	講義	合着および接着の意味を説明する。それを踏まえて合着・接着材の分類と特徴を材料学的に解説する。近年ではレジンセメントが使用されることを説明し、今まで使用されていた合着・接着材との差を明確にする。取り扱いについても基礎的な内容に触れる。
6	歯冠修復材 【教科書】p.63～p.76 【該当する到達目標】⑪、⑫	講義	チェアサイドで行われる成形修復について説明する。成型修復材料の種類にグラスイオノマーセメント、コンポジットレジン、アマルガムがあり、それぞれの特徴と適応症について解説する。また、義歯床用レジンとコンポジットレジンの材料学的特性について解説する。
7	新しい歯科材料・他の歯科治療用材料 【教科書】p.85～p.87、p.96～102 【該当する到達目標】⑮、⑯、⑰	講義	新しい材料であるチタンとジルコニアについて解説を行う。続いて、口腔インプラントの構造およびオッセointegrेशनの概念を説明する。後半でデジタルデンティストリーの流れについてCAD/CAMおよび口腔内スキャナーを中心に説明する。
8	定期試験		【試験範囲】筆記試験:講義内容全範囲から出題する。 ①配布プリント、②小テスト ③教科書p.6～p.104(p.24とp.104の確認問題は含む)(p.88～p.95は除く)

科目名 (英)	歯科衛生士総合講座 基礎 I Basic Comprehensive Studies for Dental Hygienists I	年次	1	必修科目	実務経験	科目 責任者	三嵯 雅子/古平 衣美
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	月/1.2限
講師紹介	三嵯 雅子: 歯科医師としての臨床経験を有し大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 歯学博士 新東京歯科衛生士学校副学校長 昭和大学歯学部兼任講師日本口腔外科学会認定口腔外科専門医 口腔内科学会 古平 衣美: 歯科医師としての臨床経験を有し大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 歯学博士 昭和大学スペシャルニーズリハビリテーション科特別普通研究員 口腔リハビリテーション学会 MFT学会 臨床心理カウンセラー						
目的	国家試験出題問題を基に、歯科歯科衛生士として総合的な知識を習得する。						
科目概要	歯科的専門用語や特徴を調べ理解を深める。歯科基礎分野を理解し、今後の臨床へ繋ぐことができる。総合的に系統立てて考える力を養う。自主自立学習により課題発見、解決力を養う。学習方法の習得と2人1組で協力して学習することでコミュニケーション力や他者への理解を深める。						
到達目標	①代表的な歯科疾患である、う蝕・歯周病・口腔領域の炎症性疾患について保健生態学、微生物学、病理学など各科目の見地を整理し繋がりを理解する。 ②勉強方法を確立する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	各教科の教科書			事前事後 学習と その内容	基礎分野の深い理解や知識の整理ができることにより臨床分野に繋がるだけではなく国家試験対策にも役立てられる。		
参考図書	今までに使用したノートや教科書						
特記事項	【資料(補助教材)】随時配布。						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	概要説明 ①う蝕の原因や成り立ち、進展、経過について調べる。	講義	各科目の教科書を参考に、専門的語句の意味を調べる。う蝕コンセプトマップを作成する。
2	う蝕について多角的に理解を深める。	講義	う蝕の成り立ちを整理・把握し要約説明できるようにする。
3	②歯周病の原因や成り立ち、進展、経過について調べる。	講義	各科目の教科書を参考に、専門的語句の意味を調べる。 歯周病コンセプトマップを作成する。
4	歯周病について多角的に理解を深める。	講義	歯周病の成り立ちを整理・把握し要約説明できるようにする。
5	③炎症性疾患の原因や成り立ち、進展、経過について調べる。	講義	各科目の教科書を参考に、専門的語句の意味を調べる。 炎症性疾患コンセプトマップを作成する。
6	炎症性疾患について多角的に理解を深める。	講義	炎症性疾患の成り立ちを整理・把握し要約説明できるようにする。
7	まとめ。国家試験過去問、課題問題に取り組む。	講義	国家試験に出題されたう蝕・歯周病・炎症性疾患の過去問題の解答を導き出す。
8	定期試験		筆記試験: 講義内容全範囲から出題する。 国家試験過去問題と歯科疾患(う蝕・歯周病・炎症性疾患)についての筆記試験を行う。

科目名 (英)	審美美容ゼミ Advanced dental practice	年次	1	選択科目	実務経験	科目 責任者	近松 史子/相川 奈美
		授業形態	講義・演習		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	月/3.4限
講師紹介	近松 史子/相川 奈美: 歯科衛生士としての豊富な臨床経験を活かし、歯科衛生士に必要な専門知識技術習得のための授業を行う。 ミュゼホワイトニング: 歯科医師 末光 妙子先生 歯科医師としての臨床経験を活かし、歯科衛生士に必要な審美・美容について講義する。 ヘアメイク講座: ヘアメイクアーティスト Izumi先生						
目的	提携企業による審美歯科・美容分野のゼミ講座を通じて、同分野で活躍する歯科衛生士を育成する。						
科目概要	各専門分野で活躍されている業界の方から、演習を通して実践的な知識・技術を習得することができる。						
到達目標	審美歯科で働く歯科衛生士の業務内容を知り、将来像を明確にする。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	なし			事前事後 学習と その内容	各歯科分野に興味を持つ。 日頃の通常授業においても積極的に学び知識を深めること。		
参考図書	なし						
特記事項	演習授業実施時には講師から指示のあった準備物を持参する						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	接遇、医院動画ツアー、デンタルエステ 末光 妙子 先生	演習	審美歯科における歯科衛生士の役割、患者接遇について ミュゼホワイトニング 医院動画ツアー デンタルエステ(リップ、歯肉、表情筋マッサージ)について学ぶ
2	ホワイトニング基礎知識 末光 妙子 先生	講義	ホワイトニング相互実習に向け、基礎知識や処置方法を学ぶ
3	ホワイトニング実習①ガムダム実習 末光 妙子 先生	演習	ホワイトニング相互実習に向け、歯肉保護材(ガムダム)操作を相互実践する
4	ホワイトニング実習①ガムダム実習 末光 妙子 先生	演習	ホワイトニング相互実習に向け、歯肉保護材(ガムダム)操作を相互実践する
5	ホワイトニング実習②ガムダム実習(練習)	演習	ホワイトニング相互実習に向け、歯肉保護材(ガムダム)操作を相互実践するにあたり技術サポート補講を行う
6	ホワイトニング実習②相互実習 末光 妙子 先生	演習	ポリリンホワイトニング相互実習
7	ホワイトニング実習②相互実習 末光 妙子 先生	演習	ポリリンホワイトニング相互実習
8	歯科衛生士向けヘアメイク講座 Izumi先生	演習	マスクを着用していて表情がわかりにくい職業であっても、身だしなみや表情から清潔感・親しみやすさを持ってもらえるような工夫を学び実践する

科目名 (英)	歯科訪問診療ゼミ Advanced dental practice	年次	1	選択科目	実務経験	科目 責任者	田熊栄恵/澤田明子/白土麻里奈
		授業形態	講義・演習		有	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士科Ⅱ部	時間数	15	授業回数	8		曜日/時間
		単位	1			月/3.4限	
講師紹介	森田 英明:医療法人社団翔舞会 エムズ歯科クリニック 事務局長 田熊 栄恵/澤田 明子: 歯科医院にて臨床経験を有した教員が、歯科衛生士として必要な講義・実習を行う。 白土 麻里奈: 歯科訪問診療に特化した臨床経験を有した教員が、歯科衛生士として必要な歯科訪問診療の講義・実習を行う。						
目的	多種職協働のチーム医療に対応できる歯科衛生士を育成する。						
科目概要	各専門分野で活躍されている業界の方から、演習を通して実践的な知識・技術を習得することができる。						
到達目標	訪問歯科で働く歯科衛生士の業務内容を知り、将来像を明確にする。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ()は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書							
参考図書	エムズ歯科 歯科訪問診療入門実践ナビ		事前事後 学習と その内容		各歯科分野に興味を持つ。 日頃の通常授業においても積極的に学び知識を深めること。		
特記事項	演習授業実施時には講師から指示のあった準備物を持参する						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	訪問の基礎知識 10月28日(月) 13:20-16:30 医療法人社団 翔舞会 エムズ歯科	演習	歯科衛生士として訪問歯科の基本となる基礎知識を修得する
2	訪問の基礎知識 10月28日(月) 13:20-16:30 医療法人社団 翔舞会 エムズ歯科	演習	歯科訪問診療を理解し、全体の流れや介入前の口腔内アセスメントについて学ぶ
3	訪問の口腔ケア基礎知識 11月11日(月) 13:20-16:30 医療法人社団 翔舞会 エムズ歯科	演習	歯科訪問診療を理解し、口腔ケアの手技、口腔リハビリケア、食事介助を身につける
4	訪問の口腔ケア基礎知識 11月11日(月) 13:20-16:30 医療法人社団 翔舞会 エムズ歯科	演習	歯科訪問診療を理解し、口腔ケアの手技、口腔リハビリケア、食事介助を身につける
5	多種職連携 基礎知識 11月25日(月) 13:20-16:30 新東京歯科衛生士学校 白土 麻里奈	演習	多種職連携、チーム医療について学ぶ
6	多種職連携 基礎知識 11月25日(月) 13:20-16:30 新東京歯科衛生士学校 白土 麻里奈	演習	摂食嚥下、評価、管理およびコミュニケーションについて学ぶ
7	多種職連携 基礎知識 12月2日(月) 13:20-16:30	演習	高齢者体験を通じて歯科訪問診療を理解を深める
8	多種職連携 基礎知識 12月2日(月) 13:20-16:30	演習	介護食の試食を通じて介護食を知り歯科訪問診療を理解を深める